

令和6年第15回

荒川区教育委員会定例会

令和6年8月9日
於) サンパール荒川小ホール

荒川区教育委員会

令和6年荒川区教育委員会第15回定例会

- | | | |
|--------|--|---|
| 1 日 時 | 令和6年8月9日 | 午後1時30分 |
| 2 場 所 | サンパール荒川小ホール | |
| 3 出席委員 | 教 育 長
教育長職務代理者
委 員
委 員
委 員 | 高 梨 博 和
小 林 敦 子
繁 田 雅 弘
長 島 啓 記
坂 田 一 郎 |
| 4 出席職員 | 教 育 部 長
教 育 総 務 課 長
指 導 室 長
教育センター所長
書 記
書 記
書 記
書 記
書 記 | 三 枝 直 樹
山 形 実
下 条 知 淑
杉 山 茂
原 田 正 伸
大 西 寛 和
齋 藤 一 幸
吉 田 夏 彦
宮 島 弘 江 |

(1) 審議事項

議案第 1 6 号 令和 7 年度から使用する中学校教科用図書の採択について

議案第 1 7 号 令和 7 年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(2) その他

教育長 定刻になりましたので、ただいまから荒川区教育委員会令和6年第15回定例会を開催いたします。

本日は傍聴の申込みが22名いらっしゃいます。荒川区教育委員会傍聴人規則第2条により、定員は10人と規定されておりますが、教育長が特に必要と認めた場合は、この限りではありません。できるだけ多くの方に傍聴していただけるよう広い会場を用意いたしましたので、22名全員の傍聴を許可し、遅れて来られた方の傍聴も許可させていただくことといたしますので、委員の皆様、御了承ください。

それでは、事務局、傍聴人に入場していただいでください。

〔傍聴者入場〕

教育長 審議に先立ちまして、傍聴の皆様申し上げます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載しております注意事項をよくお読みいただき、傍聴中において発言などにより議事を妨げることのないようお願いいたします。

初めに、本日の出席委員数の御報告申し上げます。本日は5名全員出席でございます。

本日の議事録の署名委員は、長島委員、坂田委員、御兩名をお願いいたします。よろしく申し上げます。

5月24日開催の第10回定例会の議事録を皆様にお送りしております。次回の定例会で承認についてお諮りしたいと考えております。次回までに御確認いただき、お気付きの点等について事務局まで御連絡をお願いいたします。

それでは、ただいまから本日の議事日程に従い、議事を進行させていただきます。本日は議案2件となっております。

初めに、議案第16号「令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

荒川区教育委員会におきましては、4月12日に開催した定例会において、今回の中学校教科用図書の採択方針及び手続を確認し、4月26日の定例会において選定調査会への調査依頼項目を決定いたしました。そして、5月10日の定例会において選定調査会の委員を決定し、7月12日の定例会において選定調査会からの報告を受けたところでございます。この間、委員の皆様お一人お一人による調査研究のほか、東京都教育委員会による教科書調査研究資料や教科書展示会におけるアンケート等も参考に調査、検討をしていただいでございます。

本日は、それらの調査研究の結果を持ち寄っていただき採択をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の審議の進め方でございますけれども、お手元の議案に記載のとおり、各教科、種目

ごとに一つ一つ審議・採択を進めてまいります。

それでは、議案の審議に入ります。議案第16号「令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局から初めに議案の説明をさせていただきます。

指導室長 それでは、議案第16号「令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について」、御説明を申し上げます。

令和7年度から使用いたします中学校教科用図書につきましては、文部科学省が示した「中学校用教科書目録 令和7年度使用」に掲載された71種類の教科書の中から10教科16種目について、それぞれ1種類の教科用図書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき、本日、8月9日に御採択をいただきます。

調査の経過について御報告申し上げます。

荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、本年5月14日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計6名で組織されており、全3回の協議を通して全ての教科用図書に関して調査研究を行いました。調査結果は、調査研究報告書として委員の皆様にも事前にお目通しいただいております。

また、令和7年度使用中学校教科用図書見本展示会を開催し、区民の皆様や各学校の教員等に直接教科書を手にとって御覧いただき、広く御意見をいただく機会を設けました。6月8日から7月1日まで荒川区立教育センター内にて、6月11日から6月19日までゆいの森あらかわにて、見本展示会を開催いたしました。また、区立学校を巡回する見本展示会につきましては、6月10日から6月14日まで荒川区立第一中学校と荒川区立第九中学校、6月18日から6月21日までと6月24日に荒川区立第七中学校と荒川区立諏訪台中学校、以上4つの区立中学校でも巡回展示会を行いました。

以上の見本展示会には、合計で256名の入場者があり、うち82%の211名の方からアンケートの回答をいただきました。このアンケートの回答は、委員の皆様には事前にお目通しをいただいております。

これら令和7年度使用中学校教科用図書選定調査会調査研究報告書及び教科用図書見本展示会アンケートなどを御参考に御審議いただき、採択につきましてよろしく願い申し上げます。

以上でございます。

教育長 ただいま説明にありましたように、採択の対象は10教科16種目となっております。議案書に記載の順に審議・採決を行い、決定してまいりたいと存じます。

審議・採決の方法は、種目ごとに事務局より改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員より報告内容に対する質疑や各社の教科用図書に対する御意見、候補とすべき図書の推薦などについて御発言をいただき、協議をさせていただきます。最終的に委員の皆様の御意見が出そろったところで採決に移らせていただきます。

採決につきましては、議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員の方に挙手をしていただく形で採決をさせていただきます。その場合、本日の出席委員が5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択となります。いずれの教科用図書も3票に達しない場合については、改めて採決をさせていただきます。

なお、退席などにより委員が4名となり可否同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、教育長である私が決定をさせていただきます。委員の皆様、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 ありがとうございます。皆さんの同意が得られましたので、そのように取扱うことといたします。

それでは、順に、教科「国語」、種目「国語」から審議・採決をいたします。

初めに、指導室長より国語について説明がございます。

指導室長 私からは、各社の教科用図書の特色について、調査研究報告書から1項目ずつ抜粋する形で御報告をさせていただきます。

それでは、教科「国語」、種目「国語」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい国語」、東京書籍でございます。内容につきましては、各学年に「情報と論理」「文学」「対話」の基礎を学ぶ「学び」シリーズが設定され、各領域の学習を支える力を身に付けることができる工夫がされております。

「現代の国語」、三省堂でございます。内容につきましては、各単元のねらいに即した学習過程が「学びの道しるべ」に示されていることにより、見通しが持ちやすい工夫がされております。

「伝え合う言葉 中学国語」、教育出版でございます。表現につきましては、「広がる本の世界」では、作者や筆者、教材のテーマに関する図書が紹介されており、生徒の読書活動の充実につながる工夫がされております。

「国語」、光村図書出版でございます。学習活動につきましては、「学びへの扉」「学びのカギ」に単元の流れやポイントが分かりやすく示されていて、見通しを持って主体的に学ぶことができる工夫がされております。

以上でございます。

教育長 ただいま、教科「国語」、種目「国語」について説明がございました。

それでは、委員の皆様、御審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 これから各教科の教科書についてコメントを述べさせていただきます。

各社教科書の検討に当たりましては、各社の教科書と資料を参考に行いました。主な資料ですけれども、先ほど事務局からも説明がございましたが、3つございます。第1に荒川区令和7年度使用中学校教科用図書選定調査会の調査研究報告書、第2としまして東京都教育委員会から出されました教科書調査研究資料、第3としましては中学校教科用図書見本展示会のアンケートで、これらを丁寧に見せていただきました。併せまして、荒川区の教育実態ということで学校への訪問、あるいは教員、生徒の方々の授業の様子を見ての教育実態なども参考にしながら教科書を検討いたしました。

さらに付言しておきたいのですが、今回の教科書の選定に当たっての基本的な考え方としては、学習指導要領に準拠しつつ、まず第1に基礎的な学力、学びのためのスキルを確実に身に付けること、第2に主体的に自ら学び、とりわけ問いを立てる力を育成できること、第3に相互交流的な活動を展開しながら考えを深めること、以上に重点を置きながら教科書を検討いたしました。

教科書全体を読ませていただいた感想ですが、一方的に知識を学ぶという形式ではなく、各教科、各社ともに、主体的・対話的で深い学びにつながるための設問であるとか、資料を基に考える内容が数多く掲載されているように思われます。

以下、時間も限られておりますので、各教科について特に優れている、あるいは荒川区にふさわしいと思われる教科書を取り上げてコメントをしていく形にさせていただきたいと思っております。

まず、国語です。国語ですが、学習指導要領の基本的な考え方は、確かな学力を付けながら表現力を養うということです。そうした基準から考えると、国語につきましては、荒川区で使用する点から優れていると思われる教科書として、光村図書出版と三省堂があると思われれます。

まず、光村ですが、優れている点の1点目として、全体として、文学、記録文ともに取り上げている文章の質が高く、日本語の美しさを感じさせてくれることです。また、光村ですが、文学などの物語を非常に重視した教科書です。近年、どちらかといいますと記録文が重視されるようになってきているのですが、しかしながら人間にとって想像力を養う上で物語文は極めて大切と思われれます。記録文が重視されている現代社会だからこそ、あえて国語の

時間においては物語文を学ぶことが重要と考えられます。

2点目ですが、QRコードが教科書のページに付いておりまして、デジタルコンテンツが非常に豊富です。聴覚に訴えかけて日本語の美しさを感じさせてくれます。例えば3年のところですが、『古今和歌集仮名序』の朗読がありまして、聞いておきますと、古典でするので意味はよく分からないところもあるのですが、日本語の古典はこんなに美しいのかと驚かされますし、この古典の意味を深く知りたいと、かき立てられるものがあります。

3点目として、興味深い内容が多く、例えば2年生のところの「翻訳作品を読み比べてみよう」などは非常に興味深く思われました。

4点目ですが、資料編が付いておりまして、この使い勝手がよいと思われました。

次、2番目、三省堂です。

1点目としては、三省堂は文章を分析的に読むことを重視しておりまして、構造的に文章を把握して読み方を学ぶという意味では優れていると思われれます。例えば図を使って人物相関図が描かれるなど、図式的な説明、図式的な解説に特徴が見られます。その点、国語的な教科書である光村とはやや対照的と言えるかもしれません。

三省堂、2点目ですが、現代社会において多くの文章があふれている中で、限られた時間の中で文章の構造を把握し、理解を深める力は重要となっています。その点では優れた教科書と言えるかと思われれます。若い先生方も指導がしやすいかもしれません。

3点目、辞書を出版している出版社ということもありますので、言葉を非常に重視しております。各単元の下段に掲載されております単語の説明ですとか漢字の読み方など、解説が丁寧となっております。

4点目としては、量的にはコンパクトにまとまっていて適量かと思われれます。

以上を勘案して、日本語の美しさを認識されてくれる物語文を重視しているという点から、また荒川区のアンケートの中でも光村がいいという意見が多かったように思われれますので、光村を挙げたいと思います。

以上です。

教育長 そのほかいかがでしょう。

では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も小林委員と同様に、最初に全体的な方針をお話しさせていただきます。

参考とさせていただいた資料は、小林委員と全く同じです。特に今回もアンケート、かなり多くの方々からアンケートにお答えをいただいている、アンケートに目を通すことにかなりの時間を費やしました。

アンケートに関しては、大半の科目で意見は割れているといえますか様々な意見があつて、

これがいいというわけでは必ずしもありませんけれども、アンケートの中の視点というのは非常に参考になるものだったと思います。その上で、荒川区における教育の特徴等、それからそれぞれの科目の大事にすべき重点ポイントを設定して選定をさせていただきました。

国語ですけれども、国語は区として読書を非常に重視していて、特に図書館を使って子どもたち自身に興味・関心を持ってもらって読み進めてもらうという方針を採っていますので、そういった方針との整合性と、それぞれそういった意味でいい教科書ばかりですが、その中で一番適しているのはどれかを第一に選考させていただきました。

まず、東京書籍「新しい国語」ですけれども、文学的文章とか説明文、それからニュース、メッセージ的な文章という意味でバランスは非常によくできていると思います。3年生には長い文章をじっくり読ませるような構成になっていて、また古典には厚みがあるという印象がございます。また、「新しい国語」はコミュニケーションを非常に重視した構成になっているわけですけれども、一方で1年生の導入部分はやや取っつきにくいところがあるかなと思いました。

三省堂ですけれども、基本の文章があって、次に「学びの道しるべ」があってという構成というのはシンプルで非常に分かりやすいものだと思います。現代文では、やや文学的文章が少なめかなと思いました。

教育出版ですが、「伝え合う言葉」というのが副題になっているとおり、この教育出版も東京書籍と同様に、コミュニケーションの手段としての言葉というコンセプトを明確に打ち出されていると思います。その中で、1年生でも後半ではかなり長い文章を読ませて、1年生からチャレンジをさせるような構成になっていると思います。また、教育出版は、結構、アナリティカルな構成にもなっていると思います。ただ、2年生、3年生に関しては、もっと文学的、物語的な文章を多めに読ませてもいいのではないかなと感じました。

最後は光村図書ですけれども、基本の文章があって、「学びへの扉」があって、それからその後、「学びのカギ」などが出てくるということで、学習の見通しが立てやすくなっていて、先生方から見ると、経験を問わず教えやすいのではないかなと思いました。

また、先ほどの小林委員から御指摘がありましたけれども、よい文学的文章が非常に多くて、ほかの教科書よりもやや難易度が上がるかもしれませんが、そういったよい文章が多いという点は荒川区の教育にとっては適しているのではないかなと思います。特に、よい文章が触れる機会が社会において少なくなった中、教科書で、そういった文章を提供していくのは大事ではないかなと思います。

それから、最後に教科書として立体的によく構造化されているなと思います。単元ごとに、漢字1とか、漢字2とか、単元は別になるのですが、漢字1の次に別単元で漢字2があって、

それから言葉 1、別単元でまた言葉 2、3 のようになっていると、単元ごとというのと、それから単元を超えたつながりということで、よく立体的に構成されているように思います。

以上のようなことから、私としては光村図書が一番よいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、どうぞ。

繁田委員 国語に限らないことですが、それぞれの教科書が、例えば一つの題材で、今ここでは何を生徒さんに勉強してもらいたいのかというのが把握しやすい、分かりやすいかどうかということと、それから後から教科書を開いて振り返ったときに、より振り返りがしやすいものというのを私は重視して拝見させていただきました。

個人的な好みを別にすれば、いずれも甲乙つけ難く難しいところですが、取り上げている文学作品以外で、特にエッセーであるとか説明文は各社特色があったように思います。その題材のことを踏まえて、個人的に三省堂と光村が特に興味深く読ませていただいて印象に残りました。

以上でございます。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 初めに、今回の選定に当たって各社の教科用図書見本と東京都教育委員会の調査研究資料、荒川区の選定調査会による調査研究報告書、それから、これまでも委員の方からありましたように、教科用図書見本展示会アンケートの回答を参考に選定いたしました。まず初めに、そのことを述べさせていただきます。

国語ですが、各社、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」について工夫して単元を設定していて、非常に盛りだくさんという印象を受けました。古典についても、少し難しくはないだろうかと思いつつ、各社、生徒の理解を促すような工夫が凝らされていると思いました。巻末の資料も充実しています。三省堂を除く 3 社が、東京書籍、教育出版、光村図書ですが、最初のページが詩で始まっていて、そういった共通するところも多くあります。

取り上げられている文学作品では、向田邦子や、あるいはヘッセなど、各社共通するところも多くあります。個人的な好みになるかもしれませんが、東京書籍の朝井リョウ、教育出版の村上春樹、光村図書の椎名誠、伊坂幸太郎などの作品というのは新鮮でした。

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のうち、「読むこと」に着目しました。

教育出版ですが、「学びナビ」というのがまず初めにあって、それから教材（作品）という構成になっています。例えば第1学年でヘッセの『少年の日の思い出』というのがありますけれども、そこではまず「学びナビ」で「入れ子構造（額縁構造）」の説明があって、次に『少年の日の思い出』を読み進めるという形になっています。

他の3社では、まず作品である『少年の日の思い出』があって、その後で光村図書出版では「学びのカギ」、三省堂では「学びの道しるべ」、東京書籍では「てびき」だっと思えますけれども、その「てびき」において語り手とか視点といったことが示されています。教育出版は、読み方を意識して読むということも必要だとは思いつつ、少し惹かれるわけですが、読み方を固定してしまうのかなとも思いました。

取り上げられている作品も含めて総合的にということになりますが、東京書籍か光村図書のどちらかではと思っているところです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、私も一言感想を申し述べさせていただきたいと存じます。重ならないように発言をさせていただきます。

国語は全ての学びの基礎であり、言語活動を通して生徒たちは人との関わり方や思考力、感性を育ててまいります。その点において、各社とも教材の選定ですとか、生徒の学びを深めるための説明方法、あるいはまたデジタルコンテンツに大変工夫を凝らしている様子、そして自社の特徴を前面に押し出している点が顕著に見受けられました。

その中で、『少年の日の思い出』ですとか、『走れメロス』、『竹取物語』、『故郷』など共通の教材等を中心に比較、検討をしていく中で、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3社が特に印象に残りました。

東京書籍は、紙面構成がすっきりしていて読みやすく、「てびき」が充実しており、単元のポイントをつかみやすいのではないかと感じました。

また、三省堂は「学びの道しるべ」が大変充実しており、自学自習にも役立つのではないかと感じましたし、思考の方法や語彙を豊かに、読み方を学ぼうなど、辞書の会社ならではの発展的な内容が盛り込まれておりまして、学びを深めるのに効果的であると感じました。

また、光村図書出版は、「学びへの扉」、「学びのカギ」、「言の葉ポケット」など、単元の振り返りに活用できるほか、単元学習に関連した図書の紹介、またICT活用への導入が丁寧に記載されており、興味深く読ませていただきました。

それでは、一通り御意見が出そろったところで、特にほかに御意見等なければ、採決に移

らせていただきたいと存じます。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 議案記載の順に発行者名を挙げ、挙手をしていただく形で採決をさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 0名ですね。

それでは、三省堂がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 2名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 0名ですか。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 3名ですね。

3名の方が光村図書出版に挙手されましたので、光村図書出版の教科用図書を国語として採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、教科「国語」、種目「国語」については、光村図書出版の教科用図書を採択することに決定させていただきます。

続いて、教科「国語」、種目「書写」の審議・採決をいたします。

指導室長より書写について説明がございます。

指導室長 教科「国語」、種目「書写」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい書写」、東京書籍でございます。内容につきまして、「身の回りの文字の目的と工夫」や「自分のノートを見直す」など、身の回りの文字の豊かさに触れ、効果的に書くための教材が充実しております。

「現代の書写」、三省堂でございます。内容につきましては、各単元の「書いて身につけよう」では、例文に国語科の教材文が用いられ、語彙や文章の理解を深めながら書き方を定着させることができる工夫がされております。

「中学書写」、教育出版でございます。内容につきましては、毛筆の学習の成果が硬筆に生かせるように、毛筆から硬筆学習につながる教材構成となっております。

「中学書写」、光村図書出版でございます。内容につきましては、全教材に「学びのカギ」

があり、学習のポイントが一目で分かるような工夫がされております。

以上でございます。

教育長 ただいま、教科「国語」、種目「書写」についての説明がありました。

それでは、委員の皆様、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 書写についてですが、荒川区に使用するのにふさわしい教科書として、光村、三省堂、そして東京書籍を挙げたいと思っております。

まず、光村です。

1点目として、1ページの中に情報を盛り込み過ぎておりませんで、一つのことに集中できる点があります。補足的な情報はデジタルコンテンツの中に入れております。

2点目ですが、これは1点目とも通じることですが、デジタルコンテンツが非常に充実していることがございます。例えば「全国文字マップ」の「身近な文字を探しにいこう」などがありまして、とても興味深く思われました。

次、三省堂です。

三省堂は非常にコンパクトにまとまっております、書写の時間が限られている中でまとまっているというのは、選定において重要なポイントであると思えます。

3番目、東京書籍ですが、書写で身に付けた力を生活の様々な場面で生かそうという工夫が見られます。例えば、「生活に広げよう」の「職場訪問しよう」というところで、書写で身につけた力をインタビューに生かし、インタビューのお礼を書くという設定がとてもよいと思われました。

3社を比較、検討した上で、光村が内容的に優れているということ、また荒川区でのアンケート、あるいは現場の声から、国語と書写は同じ会社のものにしたほうがよいという意見もございましたので、そのため光村がよいかと思えます。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 私は、書写は教科書としては全体に内容量は少ないわけですがけれども、4社それぞれ特徴があるように思いました。

小林委員と重複するところを避けますと、その前提で私は特徴の中で光村が一番よいのではないかと思いました。具体的な理由としては、毛筆のウエートは高くし過ぎずに、手書きのよさというのめかなり重視をされていますし、それから楷書と行書の対比、使い分けであるとか、現代的な用法として手紙やはがき、それから入学願書とかメール文とか、こういっ

た現代的な文章の指導のところも、かなり内容として充実をされていてバランスのいい内容ではないかと考えたところです。

繰り返しになりますけれども、全体、それぞれ特徴がある中で、光村が一番よいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも使いやすい教科書をつくっていただいていると思っておりますけれども、全体として印象に残ったのが、取り上げてお手本になっている言葉が自然に関するものだったり、道徳的な言葉であったり、昔の日本の高度経済成長をイメージするようなもので、例えば恋愛であるとか、親子の情愛であるとか、もっと少し情緒的な言葉も取り上げてもらったらいいのかなあと。これは特定の教科書、出版社に関してではなくて、そんな印象を全体としては持ちました。

本当は教科書は国語と同じほうがいいと思うのですがけれども、私は個人的には東京書籍に引かれました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 各社、楷書と行書の書き方が中心になっていますが、その使い分けや活用について、身近なことも取り入れるなど工夫を凝らしているなと思いました。

資料編ですが、三省堂は「資料編」、光村図書出版は「日常に役立つ書式」と「中学生のための漢字字典」、教育出版は「書式の教室」、東京書籍は「書写活用ブック」となっていますが、それぞれ充実したものになっていると思いました。

判型は、教育出版がA B判で、少し横幅があって見やすくなっていると思いました。書写ブックというのが別冊になっていて使いやすいのではないかとと思われることと、それから国語の教科書に合わせるほうがよいのではと考えて、光村図書出版を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、私からも一言。

4社の教科書を比較、検討する中で、私は光村図書出版と教育出版が特に印象に残りました。

先ほど長島委員もおっしゃられましたが、光村図書については別冊として硬筆用の書写ブ

ックが附属されているほか、「学びのカギ」として要点が分かりやすくまとめられておりまして、生徒たちが学習しやすいのかなと思いました。

また、教育出版については、ICT副教材「まなびリンク」で実際の筆遣いが確認できるほか、コラムなど発展的内容が充実しておりまして、ただ単に書写として字を書くだけではなく、言語文化の理解に役立つ、国語の副教材としても十分役立つ教科書になっていると感じたところです。

一通り御意見をいただきました。特にほかにないようであれば、採決に移らせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 これも議案記載の順に発行者名を挙げさせていただきます。御自分の推薦する教科書会社の際に挙手をしていただければと存じます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

次に、三省堂がよいと思われる方は挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 0名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 3名ですね。

3名の方が光村図書出版に手を挙げられましたので、光村図書出版の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、教科「国語」、種目「書写」につきましては、光村図書出版の教科用図書を採択することに決定させていただきます。

続いて、教科「社会」、種目「地理的分野」の審議・採決をいたします。

指導室長より地理的分野について説明がございます。

指導室長 教科「社会」、種目「社会（地理的分野）」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい社会 地理」、東京書籍でございます。内容につきましては、探究課題を設定する「導入」、課題を追究する「展開」、課題を解決する「まとめ」の形で構造化され、学習の流れを捉えやすい工夫がされております。

「中学社会 地理 地域にまなぶ」、教育出版でございます。内容につきましては、「学習のまとめと表現」の問題の記述欄が大きく、直接書き込んで補充教材として活用できる工夫がされております。

「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」、帝国書院でございます。内容につきましては、「技能をみがく」では、写真や地図、グラフを読み取ったり、まとめたことを発表したりする技能が習得できるような工夫がされております。

「中学社会 地理的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、まとめ・振り返りのページでは、ポートフォリオを用いて学習を振り返ることで、学びの自己調整ができるような工夫がされております。

以上でございます。

教育長 たいま、教科「社会」、種目「地理的分野」についての説明がありました。

御審議、お願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 地理の教科書についてですが、日本の国土について正しく理解できるようにすること、また、日本や世界の各地域の特色や多様性について基本的な知識を身に付けながら諸外国と日本との関わりについて学び、国際的な視野を養うことが重要と思っております。その点から、帝国書院と東京書籍が印象に残りました。

まず、帝国書院です。

1点目としまして、情報量が多く、最新の資料から日本の地理的特色をしっかりと生徒に学ばせる内容となっております。東京都の教科書調査研究資料の中でも、帝国書院ですが、他社に比べてページ数が多い教科書となっております。

2点目、ページについているQRコードから読み取れるデジタルコンテンツが充実しております。地理は実際に動画で見せるのが効果的な分野ですが、例えばヨーロッパ州などでは主要な内容について「NHK for School」からのデジタルコンテンツがありまして、理解を助けるものとなっております。

3点目としまして、単元の後ろのところに「アクティブ地理」というのがありまして、より深い内容を考えさせる、そういった教科書の構成となっております。

次、東京書籍です。

1点目としまして、コンパクトにまとまりながらも、日本や世界の地域についてバランス

が取れております。教材資料、図表の作り方、写真も適切で、レイアウトも優れていて見やすいでございます。

2点目、各項目ですが2ページ構成になっておりまして、最初に学習課題があり、2ページの下にチェック・トライなどの発問があり、学習する上での道筋を示しております。

3点目として、グループ学習の進め方に関してもガイドがあり、指導しやすい内容になっていると思われま。

以上、2社が特に印象に残ったのですが、どちらかといえば帝国書院かなと今のところは考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 地理に関しては、各社共通して地図も非常に分かりやすい印象的なものを使われていますし、子どもたちにとってなじみやすい構成になっているかと思いました。

ただ、全体に共通して1点、地域や国別の課題や、その解決策について、本来は多様性がある、ダイバーシティがあるということをもっと強調してもいいのかなと、現代的にはですね。そういうダイバーシティを子どもたちに理解してもらうのが重要で、その点は全般に少し弱いのかなと思いました。

その上で、私のほうからは2社印象に残り、重点的に検討しました。

1つが東京書籍ですけれども、全体の構成として見通しが立てやすくなっていて、先生方に対してもガイドが多く、それから、写真は帝国に比べてやや少なめのように思いますけれども、内容が非常に豊富で発展的な内容も含まれていると思います。

帝国書院ですけれども、特徴として地理的な見方・考え方というのをきっちり教えられそうだと思いました。地理的な見方というのは、例えば地図からいろいろなことを読み取る、そういった技能、それから場と生活、産業、気候などをつなげて考えられる思考といったようなことなのですけれども、そういった地理において欠かせない部分について、きっちり教えられそうという印象です。地図については、適切な配色で見やすくなっていると思います。

それから、各節の最後に「学習を振り返ろう」というのがありまして、これをざっと見てまいりますと、全般によいまとめになっているのではないかなと思いました。

両社それぞれよさがあるのですけれども、相対的に帝国書院のほうを推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも地図、写真が豊富で楽しく拝見をいたしましたけれども、4社で違いを感じたのは、選んだ写真が何を意図してといたしますか、何を伝えようとして、その写真を選んだのかの伝わりやすさと、あと、私の場合は文章のめり張りでした。いずれも、どれがということとはなかなか言いにくいんですけども、一步、帝国がぬきんでているように感じました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 地理の教科書ですが、本文だけでなく、地図とか、写真とか、図表が果たす役割が非常に大きいのではないかと思います。写真の鮮やかさ、色合い、各社それぞれで甲乙つけ難いところがあるのかなと思いました。

それから、地図帳が東京書籍と帝国書院の2社ですので、地図帳との関連で選択するというのもあるのかもしれませんが、そういった観点は取らずに学習活動という点に着目しました。

東京書籍ですが、各節に「まとめの活動」というのを設けていて、「確かめよう」、「探求のステップで振り返ろう」、「『見方・考え方』を働かせて探究課題に答えよう」、「地球的課題を振り返ろう」と段階的に構成されています。それから、用語について自分の言葉で説明するワードチェックという欄も設けられています。

教育出版は、各節の初めに「学習テーマ」を示して、各節の終わりに「学習のまとめと表現」として、「学習したことを確認しよう」、「学習したことを振り返ろう」、学習したことを活用してまとめようという、その3つと、それから「ワードチェック」というのを示しています。

帝国書院ですが、各節、まず見開きの写真や地図を示して、次に節の初めに「節の問い」というのを示して、各節の終わりに「学習を振り返ろう」というのを設けています。その「学習を振り返ろう」では、「振り返り1」で学んだことを確かめて、「振り返り2」で節の問いについて考えをまとめさせようとしています。節の重要語句をチェックする欄もあります。

日本文教出版も各節の初めに見開きで写真や地図を示し、そして解説的な文を示した上で「節の問いを立てよう」というのがあって学習を進めて、各節の終わりに「まとめと振り返り」という構成になっています。

各社、工夫を凝らしているわけですが、少し複雑と捉える向きもあるかもしれませんが、日本文教出版がいいのではないのかと思っております。日本文教出版、帝国書院、教育出版、

東京書籍の順かなということです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、私からも一言。

坂田委員とダブってしまうのですけれども、私も4社のうち、東京書籍と帝国書院が特に興味を引かれました。

東京書籍は、社会全般的にそうなのですけれども、学習課題として単元のねらいを冒頭に掲げており、見開きで本文、ページの上と左右に資料、ページの下にチェックとトライで学習内容の確認というすっきりした構成になっております。単元内容がコンパクトにまとめられておりまして、単元の学習に役立つのではないかと思いました。

一方、帝国書院につきましては、単元ごとの資料が最新で、表やグラフが分かりやすく、写真も大きくて見やすい構成になっております。

また、それぞれの地域の特色や魅力、課題も丁寧に記載されておりまして、地図帳とのリンクもしっかりなされております。「確認しよう」や「説明しよう」で、学びの振り返りができるページ構成にもなっております。

以上でございます。

それでは、御意見が一通り出そろったところで、特に御意見がないようであれば、採決に移らせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では次に、帝国書院がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 4名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

4名の方が帝国書院に挙手されましたので、帝国書院の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

{「異議なし」と呼ぶ声あり}

教育長 教科「社会」、種目「地理的分野」につきましては、帝国書院の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「社会」、種目「歴史的分野」の審議・採決に移らせていただきます。

指導室長より歴史的分野についての説明がございます。

指導室長 教科「社会」、種目「社会（歴史的分野）」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい社会 歴史」、東京書籍でございます。内容につきましては、学習のきっかけとなる導入資料、1時間の学習を見通す「学習課題」、本文、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」という学習の流れが見開きで提示される工夫がされております。

「中学社会 歴史 未来をひらく」、教育出版でございます。表現につきましては、見開きに本文・資料・学習活動がバランスよく位置付けられ、学習の流れが見通しやすく、資料が活用しやすい工夫がされております。

「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」、帝国書院でございます。内容につきましては、その時代の社会の様子を歴史的資料に基づいて描いた「タイムトラベル」など、人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図の充実がなされております。

「中学歴史 日本と世界 改訂版」、山川出版社でございます。内容につきましては、世界の歴史と日本の歴史との関連や、現在の国際情勢との関連を意識した記述になっております。

「中学社会 歴史的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、編・章・節の問いがそれぞれ設定されており、生徒が見通しを持ちやすい工夫がされております。

「新しい歴史教科書」、自由社でございます。表現につきましては、各ページに生徒たちが現在学習している時代が分かるような工夫がなされております。

「新しい日本の歴史」、育鵬社でございます。内容につきましては、世界の歴史を背景に日本の歴史の流れが理解できるよう、世界史の記述が充実しております。

「ともに学ぶ人間の歴史」、学び舎でございます。内容につきましては、「第二次世界大戦の時代」「現代の日本と世界」が各15テーマあり、戦争と平和の学習を深められるような工夫がされております。

「国史教科書 第7版」、令和書籍でございます。表現につきましては、文献史料を文のまとまりごとに示したり、史料の内容を部分要約して掲載したりしているため、生徒が主体的により詳しく調べようとした際に活用しやすい工夫がされております。

以上でございます。

教育長 ただいま、教科「社会」、種目「歴史的分野」についての説明でございました。

御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 歴史という教科におきましては、歴史的な出来事の因果関係を歴史の流れの中で理解し、その時代を体感しながら人間の社会について多角的に考える思考力を養うことが重要と思われまます。

その点から、東京書籍、帝国書院、山川が印象に残りました。

まず、東京書籍です。

1点目として、コンパクトにまとまっております、東京都の教科書調査研究資料におきましても、東京書籍は他社よりもページ数が少ないですが、量的に適切かつ内容的にも読みやすいと思われまます。

2点目、どのように学習を進めるか、そのためのガイドが丁寧ですので、若い先生であっても指導がしやすいと考えることができます。例えば「みんなでチャレンジ」というのがあり、グループ学習へのガイドがついております。また、単元の最後に学習のまとめがありまして、総じて指導のしやすさがあると思われまます。

3点目ですが、資料が精選されておきまして、原点に即したものです。歴史ですが、資料に基づきながら丁寧に読み解くことが重要ですが、よりよい資料を利用していると思われまます。例えば1872年の学制の序文で学事奨励に関する被仰出書ですが、こういったものも東京書籍には入っております。

2社目、帝国書院です。

1点目として、単元の各内容のバランスが取れていると思われまます。

2点目、QRコードで読み取れるデジタル資料が充実しております、「NHK for School」などもございます。

3社目、山川出版社です。

まず、1点目として、歴史教科書としては非常に興味深い内容になっておきまして、世界史に関する記述も多く、世界史と日本史との融合がうまくできていて奥行きが深い教科書だと思っております。

2点目は、デジタル教材が非常に充実しております、資料を見て考えさせるという姿勢が徹底していると思われまます。

3点目、身近な地域を調べようということで、荒川区が事例として紹介されておきまして、道灌山周辺についても取り上げられておきまます。これは荒川区としても大変にありがたいことと思われまます。

以上、3社を挙げさせていただいたのですが、総合的に考えると荒川区では東京書籍がふさわしいかと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 私、歴史については、歴史に関する見方をきちんと教えるということが大前提ですけども、その上で、各国、地域別の縦の歴史的な流れだけではなくて、同時期の他の地域とのつながりであるとか、それから歴史的な活動や歴史的なイベントと現代や未来との関係といったような立体的なつながりの理解が非常に重要だと考えておりました、今回見せていただくと、全社がそういった方向でかなり充実してきているのではないかなと感じました。

その上で、特に印象に残ったものとして3社挙げさせていただきます。

まず、最初に東京書籍ですけども、キャラクターの絵は、歴史上の人物が出てくるのですが、非常に親しみやすいものになっていると思います。

それから、各単元で文章と、それから図表のバランスがよいように思います。

それから、年表での振り返りがあって、これは非常に大事な内容が含まれていると思います。

「もっと知りたい」のところで発展的な学びを取り上げているのですが、多くがコラム形式で独立したものになっていまして、先生方から見ると、どれを取り上げるか選択をしながら進めていくことができる構成になっているかと思います。

山川出版ですけども、全体として非常に深みのある内容ですばらしい内容だと思います。「歴史を考えよう」、それから「歴史へのアプローチ」ということについて大きな紙面を割いて取り上げていまして、ほかの教科書と比べて発展的な内容が多いと思います。

それから、世界史とのつながり、他地域とのつながり、横展開という意味では、例えば108ページ、109ページに「ユーラシア大陸と海でつながる世界」ということで非常に印象的な横のつながりを表現されていますし、それから世紀ごとに、例えば110ページから「16世紀の世界」、150ページから「18世紀の世界」とか、こういった世界とのつながりが最も強く表現されている教科書だと思います。

最後に3番目、帝国書院ですけども、歴史の基本的な捉え方、見方、考え方というのを教えようという意欲が非常に感じられる教科書だと思います。結構スペースを割いて大きな絵を多用されていて、子どもたちも親しみやすいのではないかなと思いました。

それから、「未来に向けて」というのがあちこちにありまして、現代の我々との関連性などもつなげる形で取り上げているところです。

全体として、私としては東京書籍か帝国書院かと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも写真、イラスト、地図などが多用されていて、今の生徒さんは、これで勉強できるのが本当にうらやまく私は思いました。

読んでいてどのようなところが目についたかといいますと、1つは歴史認識の問題、それから領土問題とか、あとは災害を、特に現代続いている災害であるとか地域紛争、どのように取り上げていらっしゃるかというところを見て、しっかりと生徒さんに考えさせられる記述、あるいは教科書だろうと思えたのは、私の場合には教育出版と東京書籍でした。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

長島委員、お願いします。

長島委員 初めに全体的な印象ということになりますが、東京書籍や教育出版のように見開き2ページになっている社が多くて、本文を囲んでたくさんの興味深い資料とかが掲載されているわけですが、その一方で若干窮屈な印象を受けるところもあったように思います。

山川出版ですが、第1章の2節「身近な地域を調べよう」で、荒川ふるさと文化館や本行寺が登場して導入としては申し分ないわけですが、本文の文字が小さくて情報量も多い分、少し難しいのではという印象を受けました。

学び舎の「ともに学ぶ人間の歴史」は、A4判で余白もあって見やすく、重要語句が太字で示されているということもありません。

令和書房の「国史」は、A5判の縦書きで非常に特色があります。これは全体的な印象です。

地理的分野と同じように、学習活動という点に着目して、各社が章や節の終わりに設けている振り返りやまとめのページを検討しました。

9社全てを挙げることはしませんが、まず東京書籍は、各章の終わりは、「まとめの活動」として、「確かめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」、「年表でこの時代を振り返ろう」となっていて、「知識」、「主体的に学習に取り組む態度」、「思考・判断・表現」を確認しようとしています。

教育出版の場合は、各章の終わりに「学習のまとめと表現」というページを設けていて、「HOP!」、「STEP!」、「JUMP!」から構成されていて、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」を培おうとしています。

帝国書院は、各章の終わりに「学習を振り返ろう」のページを設けて、「学習事項の確認」、「節の振り返り」、「章の振り返り」で、「知識」、「思考・判断・表現」を確認しようとしていて、「章の重要語」をチェックする欄もあります。

山川出版の各章の終わりは「まとめ」のページで、「考えてみよう」、「まとめてみよう」、「比べてみよう」といった形で、文章で表現させようとしています。

日本文教出版の各章の終わりは、「まとめとふり返り」というページで、「いつ、どこで、何があった？」で「知識」を、「～はどのような時代？」で「思考・判断・表現」を、「～の学習をふり返ろう」で「主体的に学習に取り組む態度」を確認しようとしています。

他の教科、科目に比べて、歴史的分野は特色に富んだ教科書が多いわけですが、総合的に判断して、東京書籍、帝国書院、日本文教出版のどれかと思っています。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、私からも一言。

歴史的分野については、9社から教科書の見本が提出されておりまして、各社ごとに日本の歴史の流れと世界の歴史を関連づけて当時の時代背景ですとか、あるいはまたその出来事がどのような結果をもたらしたのかということを知りやすく解説しております。また、今、世界で、日本でどのような問題が生じているのか、あるいはまたこれからの社会がどうあるべきかを生徒たちに考えさせる内容となっております。各社としての歴史認識が顕著に表れた教科書となっており、それぞれ興味深く拝見させていただきました。

その中で、私自身が特に印象に残ったのは、東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版でした。

東京書籍につきましては、地理でも述べましたが、紙面構成が分かりやすく、ページ右脇には年代が一目で分かるスケールもつくられており、生徒たちが学びやすいのではないかと考えた次第です。

また、教育出版については、本文の記述が丁寧で、資料や写真も大きく、魅力的なものが多く掲載されておりました。

また、帝国書院につきましては、章の初めに小学校の学習との関連を明示しているほか、未来に向けてとして、当時の出来事が現代や未来へつながっていることの紹介ですとか、「歴史を探ろう」、「アクティブ歴史」など、発展的な内容が随所に取り入れられております。

また、山川出版社については、これは何人かの委員も御指摘されていましたが、荒川区の道灌山周辺について、身近な地域を調べようということで、ふるさと文化館も含めて記述が

なされておりまして、生徒たちにとりましては身近な地域のことが取り上げられているという事で、大変親しみが湧くのではないかなと思った次第ですし、社会的事象についても、その出来事の背景や理由が詳細に解説されておりまして。

ただ、歴史好きの子どもたちにとっては大変魅力的だとは思うのですが、少し難しいかなとも思った次第です。

それでは、一通り御意見が出そろったところで、採決に移らせていただいでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、発行者名を挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 4名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

これでもう5名です。うち4名の方が東京書籍に手を挙げられましたので、東京書籍の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、教科「社会」、種目「歴史的分野」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「社会」、種目「公民的分野」の審議・採決をいたします。

指導室長より公民的分野についての説明がございます。お願いします。

指導室長 教科「社会」、種目「社会（公民的分野）」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい社会 公民」、東京書籍でございます。内容につきましては、単元を貫く探究課題を設定し、1時間ごとの学習課題と探究課題をつなぐ「探究のステップ」を設けることで、段階を踏んで探求課題を解決できる構成の工夫がなされておりまして。

「中学社会 公民 とともに生きる」、教育出版でございます。内容につきましては、各章で意識させたい視点である「見方・考え方」を導入ページで紹介し、「見方・考え方」を働かせた学びが各章の学習内容と連動させながらできるような工夫がされておりまして。

「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」、帝国書院でございます。内容につきましては、単元を貫く「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」

「説明しよう」、節の末の「節の問いを振り返ろう」、章末の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、問題解決的な学習ができる構成の工夫がなされております。

「中学社会 公民的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、「まとめとふり返し」ページでは、習得した知識を確認した後、「章の問い」に答える活動を行い、ポートフォリオを用いて学習を振り返ることで、学びの調整ができるような工夫がされております。

「新しい公民教科書」、自由社でございます。内容につきましては、文字量が少なく、資料が精選され、内容がコンパクトにまとまっているため、情報を読み取る負担が少なく、生徒の理解がしやすい工夫がなされております。

「新しいみんなの公民」、育鵬社でございます。内容につきましては、「見方・考え方」では、身近な出来事や生徒の生活に影響があることなどを取り上げ、豊富な資料を用いて学習が深められるような工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 ただいま、教科「社会」、種目「公民的分野」についての説明がありました。

御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 各社の教科書ですが、構成的に似ていることもありまして、かなり迷いました。生徒が学びやすいかどうかを中心として選定させていただきまして、その点、2社がよろしいかと思いました。

1社目、東京書籍です。

1点目ですが、内容が平易でまとまっていることに加えて、どのように学習を進めるのが明確です。見開き2ページ構成で、各項目ごとの学習課題があり、2ページ目下にチェック&トライがついております。

2点目ですが、中学生にとって身近なテーマが取り上げられていて、学習に入りやすい内容となっております。例えば「決まりをつくる目的と方法」というところでは、部活での体育館の利用に関してということで、各部でどのように調整をするかという内容となっております。

3点目、私たちと国際社会の諸課題が充実しておりまして、その意味で急激な国際情勢の変化の中でどのように生きていけばいいのかを考えることは重要で、この点、優れているかと思いました。

2社目が帝国書院です。

1点目ですが、経済が非常に充実しておりまして、例えば「アクティブ公民」の中で、一

人暮らしにはお金が幾らかかるかとか、具体的に考える内容となっております。今後、21世紀を生き抜いていくために、経済について知識を身につける必要がありまして、その意味では優れた教科書と考えております。

以上から勘案しまして、東京書籍、帝国書院がいいかと思われま。東京書籍が内容が平易でコンパクトにまとまっていること、また現場の先生等の御意見でも東京書籍で問題はないという御意見も少なからずあったようですので、東京書籍がいいのではないかと考えております。

以上です。

教育長 では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私は、公民は2つ重要なポイントがあると考えました。

1つは、社会の変化が非常に激しくなっている中で、そういった社会の変化にきちんと対応できているかどうか。最近でいいますと、SDGsは主役ですけれども、持続可能、グローバル、それからAI、多様性、共生、それからメタバースなどといった、そういったようなものです。それから、もう一つは、知識の提供だけではなくて、公民は特に探究の部分が大事だと考えております。

以上のような視点から、特に印象に残った教科書としては3点ございます。

1つは東京書籍ですけれども、東京書籍は章ごとに知識の提供がまずあって、その後、学習のまとめ、確かめよう、振り返ろう、深めようと、このようにつながっていく構成が非常に明確だと思いますし、探究を重視した教科書構成だと思います。

それから、コラムとして「もっと知りたい」というのがところどころにあるのですが、公民は時間も限られていますので、こういった独立した形式ですと、先生方が必要なものを取り上げていくことに支障がなくて教えやすいのではないかなと思いました。

それから、2番目は帝国書院ですけれども、各章で振り返りがあって探求があるということで、この教科書も探求はかなり重視したつくりになっていると思います。また、かなり未来志向ということで、現代的な話題について、変化の速い時代の中で、そういったものとのつながりを重視された構成になっているかと思います。

それから、教育出版ですが、考えさせる力の育成を重視した構成になっているところが特に印象に残りました。生徒や、それから生徒を指導される教員の方々の主体性をとても重視されていると思います。例えば自由というのは何だろうという基本的な発問から出発して、こういった基本的な発問が教科書の中にたくさんあるのですけれども、考えさせていくという、そういった構成になっています。

ただ、残念ながら授業時間内では、これをこなすのは教える側から見ると結構難易度が高

いかなと思いました。

以上のような観点から、現段階では東京書籍か帝国書院かと考えております。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 いろいろなトピックを網羅しないといけないという部分と、重要なトピックを取り上げて、そこに比重をかけてというバランスが難しいところだなと、各出版社の方々、多分苦労されたのだらうと思えます。

その中で、一番バランスのよさを感じたのと読ませる力を感じたのは、私の場合には教育出版と日本文教出版でした。

それから、最後に法令集があって、多分、僕も中学生だったらそんなところはあまり見ないかなと思うのですが、大事な憲法等をしっかりと生徒に読ませようという出版社の姿勢を強く感じたのも今の2社でしたので、2社、教育出版と日本文教出版で迷うところです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 公民的分野ですが、各社、本文と、それから写真や図表を示すことで生徒の理解を促そうという工夫を凝らしているのかなと思いました。

各章の終わりのまとめのページの構成は、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版のいずれも歴史的分野と同様になっていると思いますが、帝国書院は「学習を振り返ろう」の中の「節の振り返り」で、「図で知識を整理する」、「図で問いを考える」、「問いをまとめる」といった工夫を凝らしていました。

日本文教出版は、各章の終わりの「まとめと振り返り」を、その章で出てきた重要語句の意味を確認することから始めています。

それから、育鵬社ですが、歴史的分野の各章の終わりの「学習のまとめ」は、見開き2ページで「～の時代を振り返って考えてみよう」ということで多様な学習活動が示されていましたが、公民的分野の各章の終わりの「学習のまとめ」は1ページで、重要語句をチェックする欄と、3つの学習活動を示していてシンプルな形になっていたと思いました。

また、各社の見開き2ページの単元の構成に着目しますと、東京書籍は学習で取り組んだことを振り返る「チェック」というのが左ページの下段に、それから「トライ」というのが右ページの下段に示されています。

教育出版は、その時間で学習したことを振り返って確認する「確認」と、学習したことを

活用して表現する「表現」を見開き2ページの資料の下段、下の欄に設けています。

帝国書院も同様に、見開き2ページの右側下に「確認しよう」、「説明しよう」という欄を設けています。

日本文教出版は見開き2ページの右側下に「確認」と「表現」の欄を設けています。

自由社の場合は、見開き2ページの右側下が、「ここがポイント」というのが示されています。

育鵬社は、右ページの下段に「確認」と「探究」というのが示されています。

本文説明の分かりやすさ、学習活動の展開という点から教育出版かなと思う一方で、見開き2ページの右ページ上に見方・考え方を働かせて学習内容の理解を深める「アクティビティ」というのを多数示している日本文教出版もよいのではと思っています。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、私からも一言。

公民的分野につきましては、現代社会の仕組みについての正しい理解と未来社会の担い手としての自覚と自立を養う教科であり、社会の様々な課題について、学ぶだけではなく、自ら考え、そして生徒たち同士で議論をすることを通して人との関わり方、自分の考え方と他人の考え方も学んでいくという授業になります。

その観点から、学び合いという点を重視して6社の教科書を比較、検討し、東京書籍、教育出版、帝国書院の教科書に特に印象が強く残りました。

東京書籍については、「みんなでチャレンジ」や「深めよう」としてグループでの議論や話し合いを通して学びを深める設問が多く取り入れられており、「もっと知りたい」などのコラムも充実しております。

また、教育出版は、單元ごとの学習のポイントが、学習課題や副題、確認、表現などで繰り返し強調されておりまして、資料も大きく見やすいものとなっております。

また、帝国書院につきましては、SDGsの観点を強調しながら、単元学習に関連して「アクティブ公民」や「技能をみがく」、「未来に向けて」、「公民プラス」など、グループ学習や発展的学習に役立つ教材が多く盛り込まれております。そういった印象を受けました。

公民的分野についても、ただいま委員の皆様から御意見をいただいたところでございますけれども、採決に移らせていただいでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、発行者名を挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 3名ですね。

次に、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 2名ですね。

3名の方が東京書籍に挙手をされましたので、東京書籍の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「社会」、種目「公民的分野」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「社会」、種目「地図」の審議・採決に移らせていただきます。

指導室長より地図についての説明がございます。

指導室長 教科「社会」、種目「地図」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい社会 地図」、東京書籍でございます。表現につきましては、各州・地域の資料項目が統一されており、他の地域との比較がしやすい工夫がなされております。

「中学校社会科地図」、帝国書院でございます。内容につきましては、世界の州は、「一般図」「鳥瞰図」「資料図」という配列、日本の地方は、「地方別地図」「拡大図」「資料図」という配列で構成されている工夫がなされているところでございます。

以上でございます。

教育長 教科「社会」、種目「地図」についての説明でした。

御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 地図については、帝国書院がいいと考えます。

1点目、見やすさというのがあります。

2点目、地図帳が軽く、手に取ってみたいくなりますし、また持ち運びにも便利かと思われるます。

3点目、各ページに「地図で発見」というのがありまして、これが非常に充実していると思われました。例えば中国・四国地方ですけれども、大分から神戸と別府から大阪の船の航路を指でたどり、瀬戸内海は九州地方と近畿地方を結ぶ重要な役割を果たしていることを確認しようといった、そういったガイドがあります。こうした指示ですが、深い理解と、さらなる思考の発展につながると考えられます。先ほど地理的見方と坂田委員が指摘されていた

のですけれども、地理的見方を養うものではないかと思われました。

東京書籍に関しては、統計資料が非常に充実している地図帳という印象を持ちました。

以上から考えまして、地図は帝国書院がいいかと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 まず、東京書籍ですけれども、資料と、それから資料に関する説明は総体的には充実していて、その中で特に135、136ページの自然災害への備えであるとか、それから図としては各地域の鳥瞰図があって、これがダイナミックに地形を実感できるところは優れていると思います。

一方で、全体として見ますと、帝国書院のほうが地図が落ち着いた色調で見やすく、それから気候、降水量、人口密度、産業分布、エネルギー分布などといった地理の基本的な項目が体系的に配置をされていて分かりやすいなと感じました。

総合的に見て、私としては帝国書院がよいと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 小林委員、坂田委員の御意見に追加して申し上げることは特にございません。帝国書院がいいと思いました。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 資料という点では帝国書院のほうが充実しているような印象を受けましたが、色合いの関係か、私は地図そのものは東京書籍のほうが見やすいと思って、東京書籍がよいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、私からです。私は2社を比較、検討する中で、長島委員とは違って見やすさというのでは帝国書院の地図のほうが見やすいと思いました。

また、地名や名称、旧跡の記載が充実していて、充実しているうえに分かりやすく記載されていると思いました。

また、「地図で発見」という設問が各ページに設けられており、興味を持って地図を見ることができないのではないか、地図を見る楽しみが増えるのではないかと感じました。

1点だけ、縮尺の関係で難しかったと思うのですが、東京都の中心部を示した「東京都の中心部」というページで、南千住や日暮里は載っているのですが、町屋と尾久が欠けていて、一方で東京書籍のほうは荒川区が全て東京中心部に載っているので、それが少し残念だと思いました。

そのほか特に御意見等がなければ、採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 お1人ですね。

帝国書院がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 4名ですね。

4名の方が帝国書院に挙手をされましたので、帝国書院の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「社会」、種目「地図」につきましては、帝国書院の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「数学」、種目「数学」の審議・採決をいたします。

指導室長より数学についての説明がございます。

指導室長 教科「数学」、種目「数学」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい数学～数学のつながり MATH CONNECT～」、東京書籍でございます。内容につきましては、見の回りや社会事象、小学校既習事項や発展的内容等を単元と関連させて配置し、興味・関心を持たせながら数学的思考を育てる内容となっております。

「数学の世界」、大日本図書でございます。内容につきましては、学習の導入部分で「考えよう」が設けられ、既習事項を基に新たな学習への興味・関心を持てるように配慮されている工夫がなされております。

「中学校 数学」、学校図書でございます。内容につきましては、「確かめよう」「深めよう」など、生徒が実態に応じて取り組める課題が設定されております。

「中学数学」、教育出版でございます。内容につきましては、補充問題、実力アップ問題などがあり、個に応じた教材が準備されているところでございます。

「未来へひろがる数学」、新興出版社啓林館でございます。内容につきましては、章末の問題が充実しており、「学びをたしかめよう」では基礎的・基本的な内容を、「学びを身につけよう」では応用力を問う問題まで取り上げております。

「これからの 数学」、数研出版でございます。内容につきましては、生徒にとって身近な問題を数学的に解決する機会が設けられており、興味を持って取り組むことができる工夫がなされております。

「中学数学」、日本文教出版でございます。内容につきましては、日常生活を題材とした問題を数学的視点で捉える機会が設けられており、興味を持って取り組むことができる工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 たいま、教科「数学」、種目「数学」についての説明がございました。

御審議、お願いいたします。

小林委員。

小林委員 選定に当たってですが、まず第1に基礎を重視するということです。数学が得意な生徒も、苦手な生徒も、基礎的な概念ですとか、原理、法則などをきちんと理解することが大切だからです。第2に、抽象的な内容と具体的な日常生活との連携ということがあります。数学で学んだことを日常生活に生かすことが大切と思われま。この2点を重視して選定をさせていただきました。2社が優れていると思います。

1社目が東京書籍です。

まず、1点目として、東京書籍。ページ数は他社と比べて少ないものの、コンパクトによくまとまった教科書であると思います。

2点目、抽象的な考え方を実際に図式的に分かりやすく見せる工夫がなされております。図が直感的な理解を助けて、分かったという面白さを知らせるという意味では非常にいい内容になっていると思われま。

3点目、導入の課題で、日常生活と関連するような内容を持ってきております。例えば本棚を作るのに必要な棒の本数であるとか、そういったような内容となっております。

4点目、基礎的な内容が充実していて、基礎的なことを積み上げつつ次第に発展的な内容に導いていまして、無理がない構成になっております。つまり、スモールステップ化を図っているということです。

次、2社目ですが、新興出版社啓林館です。

1点目としては、シンプルではありますが、必要なことを手堅く教えている点です。

2点目ですが、事例が興味深い点がございまして、例えば方程式のところ、校外学習で出かける場合に1日乗り放題のチケットを買ったほうがいいのか、あるいは1回ごとにバスの切符を買ったほうがいいのかといった、そういった事例があります。

3点目、みんなで学ぼうという基礎的な部分と、自分から学ぼうという発展的に学ぶため

のものがあります。荒川区は数学で習熟度別学習を導入しているので、こうした習熟度別にも適しているかと思います。

教科書的に見ると、以上2社が非常に印象的でした。ただ、荒川区で実施されたアンケートを見ますと、東京書籍という意見が比較的多かったように思われますので、東京書籍がいかと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 私も小林委員と同様に、数学について子どもたちが解いていることに関して、それがどういうことをやっているのかという直感的な理解を助ける、そういった教科書がよいのではないかと基本的に考えています。

小学校のときは算数で、中学校から数学になるわけですがけれども、小学校の時代は比較的、直感的に理解しないと解けないというか、そういったことを教えているわけですが、中学になると方程式だとか、そういったルールによって、目の前でそのときは解くことはできるようになるのですが、それだけだとその後の発展の基盤にならないと考えられます。そのため、先ほどの点を重視して各社眺めさせていただきました。

2つの教科書、どちらかということで迷ったのですが、1つは啓林館で、全体として設問の意図が分かりやすく表示されているなと思いました。例えば数量を文字で表すとか、それから表現、もしくは直感的な理解を助けるという意味では身近なものを取り上げていて、例えばダム貯水量とか、うどんの売上げだとか、楽器の希望者と定員など、そういった子どもたちを引きつけるような例を取り上げているところがいいなと思いました。

もう一つが東京書籍ですが、やや厚めの教科書で大きな写真や図を使っています。「考えてみよう」、「調べてみよう」、それから見方・考え方など、問題設定がそれぞれの単元で細かく提示をされていて、構成自体はシンプルですが、教える先生から見ると、手分かりが各単元にそれぞれあって教えやすいのかなと考えたところです。

少し迷っているのですが、今の時点では、その2つを候補にしたいと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 いずれも発展学習を考慮して主体的な学習を促しているということは多くの工夫がされていると感じました。自分が生徒だったらどれが使いやすいか、あるいは自分の子どもや孫だったらどれで勉強させたいかとして見てみました。

内容、構成に関しては、小林委員、坂田委員がおっしゃったとおりですけれども、ページの見やすさというのは割と会社によって違っているように思いました。

印象に残ったのは3社で、1つは、啓林館はページの色と白ですけれども、白もそれぞれ会社によって違いますけれども、文字のコントラストがすごく見やすい感じがしました。啓林館に関しては内容で空間図形のところの構成が見事だなと僕は感心して読みました。

それから、日本文教出版に関しても、ページの色と文字のコントラストがとてもよくて、しかもうるさくないので生徒さんが疲れなと思いました。文字がほかの会社に比べて浮き上がって見えるように思いました。

それから、東京書籍はすごく現代的なレイアウトでセンスがいいなあと、今風のセンスだなと、今の生徒さんは引かれるのかなと思いました。

私の中では、1番、啓林館、2番、日本文教出版かなと感じています。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 7社について問題を一部解いてみたりしながらページをめくりました。各単元の説明、それから例題や問題の配置、節の終わりや章の終わり、巻末の終わりに示された問題等を検討して、東京書籍、学校図書、啓林館の3社に絞って検討しました。

東京書籍は、冒頭で「大切にしたい数学の学び方」、「数学マイノート」、「この本の構成と使い方」を示しています。

学校図書の冒頭は、「この教科書を使った数学の学び方」を示し、「問題発見」、「問題を考えよう」、「まとめよう」、「次の問題発見」、「協働的に解決する数学的活動」など10項目を挙げています。

啓林館の冒頭の「教科書の構成と使い方」では、「表現する力を身につけよう」、「問題を発見し解決して、さらに深める力を身につけよう」、「学びをたしかなものにしよう」、「いろいろな場面で役に立つ大切な考え方を身につけよう」といったことが示されています。

各単元の本文、説明、例題、問題等については、3社甲乙つけ難いという印象ではあります。

東京書籍は、各節の終わりに「基本の問題」を、それから各章の問題を「章の問題A」というのと「章の問題B」を挙げて、巻末に「ふり返り」と「補充の問題」というのを示しています。

学校図書は、各節の終わりに「確かめよう」、各章の終わりに「章のまとめの問題」ですが、それを「基本」、「応用」、「活用」別に示しています。さらに、「深めよう」という

ことで「発展」の問題を、巻末には「復習」の問題を示しています。

啓林館は、節の終わりに「練習問題」、章の終わりに「章末問題」を、その章末問題ですが、「学びをたしかめよう」、「学びを身につけよう」という形で示しています。そして、巻末の「数学広場」では、「学びをふりかえろう」で復習の問題、「力をつけよう」で学んだことの総仕上げをするための問題、「学びをいかそう」で学んだ数学を身の回りなどで利用するための問題を示しています。

3社それぞれ工夫されていて迷うところもないわけではないのですが、学習活動の進めやすさという観点から私は学校図書を推したいと思っています。学校図書、啓林館、東京書籍の順となります。

以上です。

教育長 それでは、最後に私から申し上げさせていただきます。

中学校の数学については、習熟度別学習を各クラスで行っております。数学が得意な生徒、数学が苦手な生徒もいる中で、まずは数学の基礎について生徒たちに正しく理解させるのに最も優れた教科書は何か、そしてまた習熟度別学習の際に能力に応じて効果的に活用できる教科書はどれかという視点で検討をさせていただきました。

また、数学を身近な生活と関連付けて、生徒たち自身が興味・関心を持ってもらえるような内容が書かれている教科書についても選定の基準といたしました。

7社の教科書を比較、検討する中で、東京書籍、大日本図書、啓林館の教科書が特に興味を引かれました。

東京書籍については、単元の導入に当たって身近なことから生徒たちに興味を持たせる工夫をしており、授業の目標も分かりやすいものとなっております。基本問題やデジタルコンテンツも充実しており、家庭学習に役立つのではないかと考えます。

また、大日本図書は、ページ構成がすっきりしており、授業の目当てが分かりやすく、活動として考えさせるという設問が随所に掲載されてございます。

また、新興出版社啓林館については、例題、考え方、注意、回答、問題、広げよう、発展と流れがはっきりしていて、問題に取り組みやすいものとなっております。章末問題も充実している点が印象的でした。

それでは、御意見が出そろったところで、採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 3名ですね。

一応念のために、大日本図書がよいと思われる方。

〔各委員挙手〕

教育長 学校図書がよいと思われる方。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

教育出版がよいと思われる方、お願いいたします。

〔各委員挙手〕

教育長 新興出版社啓林館がよいと思われる方。

〔各委員挙手〕

教育長 1名ですね。

それでは、5名全員が出そろいました。

3名の方が東京書籍に挙手されましたので、東京書籍の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「数学」、種目「数学」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「理科」、種目「理科」の審議・採決をいたします。

指導室長より理科について説明がございます。

指導室長 教科「理科」、種目「理科」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい科学」、東京書籍でございます。表現につきましては、観察・実験の中には「別法」が示されている場合があり、多面的な考えを促すことができるようになっている工夫がございます。

「理科の世界」、大日本図書でございます。内容につきましては、各単元の終わりに、「まとめ」「章末問題」「読解力問題」が掲載されていて、生徒は実態に応じた学習ができる工夫がなされております。

「中学校 科学」、学校図書でございます。表現につきましては、観察・実験は、写真を活用して、その手順が示されており、生徒にとって分かりやすい工夫がなされております。

「自然の探究 中学理科」、教育出版でございます。内容につきましては、単元の初めに、単元に関係のある写真を見開きで掲載するとともに、学んでいくこと及び既習事項との関連を示している工夫がなされております。

「未来へひろがるサイエンス」、新興出版社啓林館でございます。学習活動につきましては、「探Q実験」「探Qシート」で、他者の意見を基に自分の考えを再検討する場面が設定されており、対話を深める工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 教科「理科」、種目「理科」についての説明がございました。

御審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 まず、選定のポイントですが、1点目として実験の重視を考えました。2点目としては、生徒にとって分かりやすく興味を引く内容であること、特に日常生活における現象と関連付けて理解できること、以上を重視しました。その点から2社が印象的でした。

1社目、東京書籍です。

まず、1点目に、学習の手順や指示が明確であることです。問題発見、課題設定、実験、あるいは観察、結論を表現し、活用するという、こうしたプロセスが明確であり、また指示に関しても明確となっております。

2点目、東京書籍ですが、実験を重視しておりまして、東京都の教科書調査研究資料でもそのことが指摘されているのですが、他社と比べると実験の説明図も比較的に分かりやすいと思われま。

3点目、レポートの中の考察の書き方、あるいは話合いの仕方、グラフの描き方といった、そういった細かい点でのアドバイスがありまして、これは非常に分かりやすい内容となっております。

4点目、興味深い内容があるということで、日常生活や社会との関連に関する内容を取り上げている箇所がかなり多いということです。

2社目は、新興出版社啓林館です。

1点目ですが、実験して、その上でさらに深く考えさせる内容となっております。

2点目、QRコードで読み取れるデジタルコンテンツが充実しております。

3点目、日常生活や社会との関連について取り上げているということです。

総合的に考えて、東京書籍か啓林館がよろしいかと今の段階では考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 理科は、各社の教科書の間のでつくりの差が結構ある科目だと感じました。また、理科は、複数の教科に分かれてはいいのすけれども、実質的に複数科目、生物、地学、物理、化学といった科目の束になっているということで、それぞれの領域ごとには時間が限られているところがあります。そういう面から、子どもたちがつまずきそうな内容の部分の分かりやすさと、それから知識の提供と、その探究とのバランス、これを考慮して各社の検討をさ

せていただきました。

1つ目は啓林館なのですが、写真がとてもきれいで、すっきりしていますし、それから図解も分かりやすいと思います。それから、子どもたちの関心を呼ぶような設問があちこちに設定をされています。

それから、「なるほど」とか、「部活ラボ」とか、「観察のスキル」というところはある程度独立していて、子どもたちの関心により学ぶことができるようなパートが用意されています。

子どもたちの苦手という意味では、例えば人の体とか、それから磁界とか、電気分解等、イオン、化学反応式、こういったようなところが代表的ではないかと私は思うのですけれども、そういったところを個別に見せていただくと分かりやすい構成になっているかと思えます。エネルギーの保有のところは、理解のためには繰り返しトレーニングが必要な部分なので、もう少し問題があってもいいかなとは思いましたが、全体として説明と探究のバランスも取れているかと思えます。

東京書籍「新しい科学」ですが、観察と実験を重視していて、学びの能動性を大変大事にしているような印象です。そういう意味で、探究をやや総体的には重視した内容になっているかと思えます。

それから、大事なところは大きな図や、それから太い文字で表現をされていて、そういった強調されている部分は優れていると思います。例えば2年生の53ページからの化学反応式は読み取りやすい内容かと思えます。

3つ目が大日本図書「理科の世界」ですけれども、1年生は小学校での学びとのつながりがきちんと設定をされていて、そのところは好印象を持ちました。

それから、特に絵の使い方が上手で、写真よりも絵のほうが分かりやすいということを実感させてくれる場面も結構ありました。例えば1年生の83ページはバーナーで加熱しているところですが、この絵のほうが写真よりも分かりやすいなということを感じました。ただ、1ページに盛り込まれている内容がやや多くて、その内容がまた多様過ぎるところが少し散見されました。

総合的に見て、私としては啓林館を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 理科は、興味がすごくある生徒さんと、そうでない生徒さんがかなり分かれる科目の一つかなと思います。最低限、皆さん、生徒全員が学ぶべき必修事項の分かりやすさとい

うことについて見ると、これは僕が見る限りは甲乙つけ難くて、そうすると学力ある学生が発展的内容でより興味を持って勉強できるような材料がどういったところにちりばめられているかという視点で見ると、例えば東京書籍であれば「歴史にアクセス」、大日本でしたら「研究活動」、地震の震源はどこかのようなところはすごく面白かったですし、啓林館でいえば科学コラムですかね。この辺、どれも魅力的ではありましたが、今、3つの会社が印象に残りましたけれども、その中で強いて言えば、私の場合は東京書籍でした。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 理科ですが、5社の教科書について、一つは本文と写真・図表のバランスや見やすさ、それからもう一つは学習の進め方の2点を中心に検討しました。

本文と写真・図表のバランスや見やすさですが、東京書籍は写真や図表が鮮明で、本文とのバランスもよく、見やすいという印象です。

大日本図書は、本文も図表も見やすく、教科用図書選定調査会の調査研究報告書に示されていますように、東京書籍や教育出版と同様に、第1学年の教科書の本文は、第2学年、第3学年の教科書よりもポイントを大きくしているわけですが、見開きでB4判で若干余裕がないというか、窮屈な印象を受けました。

教育出版も第1学年の教科書の文字ポイントが大きくなっていて写真や図表も見やすいのですが、他社に比べて文章・文字が多いという印象を受けるところがあったように思います。

啓林館は多数の写真や図表、それから色合いや文章等のバランスがよく見やすいのですが、文字が多いという印象を受けるところもあったように思います。

学習の進め方については、学習指導要領に示されている理科の目標、自然の事物・現象に関わり云々というものですけれども、それに即して各社、「探究」の流れ、過程というのを明確に示して各単元を構成しております。

東京書籍は、問題発見、課題、仮説、構想、観察・実験、分析解釈、検討改善、自分の考えをまとめる、ふり返り、活用という流れとなっています。

大日本図書は、「課題をつかもう」として、問題の発見、学習の課題、「観察や実験をしよう」として、予想・計画、観察・実験、結果、「結果をもとに考えよう」として、考察、解説などという流れを示しています。

学校図書は、気づき、課題設定、仮説、検証計画、観察・実験、結果、考察、ふり返り、伝える、次の気づきという「探求の進め方」を示しています。

教育出版の場合は、「疑問を見つける」、「課題を決める」、「仮説や計画を立てる」、

「観察や実験などをする」、「得られた結果を考察し、結論を出す」、「さらに、新たな疑問から次の探究へ」という探究の進め方を示しています。

啓林館は、「探究の過程」について、疑問と課題を「課題の把握」としてまとめて、仮説、計画、観察・実験、結果を「課題の追求」、考察、表現を「課題の解決」と整理しています。表現というのは、結果をまとめ、レポートを作成したり口頭発表したりすることになっています。

各社、優劣つけ難いところもなきにしもあらずというところなのですが、総合的に見て、啓林館か東京書籍かなと思っています。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私も長島委員が御指摘されたように、理科については、まず生徒たちに興味・関心を抱かせて、観察や実験、調査、あるいはまた話し合い等々をして疑問や不思議を解決していく探究的授業に最も適した教科書を選ぼうと考えました。

分野も、生物、地学、化学、物理と広範囲にわたっている中で、5社を比較、検討し、その結果、東京書籍、大日本図書、啓林館の3社に特に興味を引かれました。

東京書籍については、まず初めに問題発見として疑問点や課題を提起し、観察や実験を通して仮説を検証し、法則を理解させるという手順を基本にしております。学習内容の整理や確かめ問題、活用問題も充実しているという印象でした。

また、大日本図書は、小学校からの接続を意識した丁寧な作りになっていると感じました。单元ごとにクエスチョンマークで課題を明確化し、実験や観察を経て結果の考察を行うという手順を取っております。

また、新興出版社啓林館は、ページ構成の中で写真を多く活用し、生徒たちの興味・関心を引きやすい構成になっていると感じました。実験用に「探Qシート」も附属されており、ポイントがつかみやすいのではないかと、振り返りや確認問題、学習のまとめも充実しているという印象でした。

それでは、御意見をいただいたところで、特にそのほかないようであれば、採決に移らせていただきたいと思います。

それでは初めに、東京書籍がよいと思われる方は、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 2名ですね。

では、大日本図書がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

学校図書がよいと思われる方。

〔各委員挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

教育出版がよいと思われる方は挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

新興出版社啓林館がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔各委員挙手〕

教育長 3名ですね。

3名の方が新興出版社啓林館に挙手をされましたので、新興出版社啓林館の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「理科」、種目「理科」につきましては、新興出版社啓林館の教科用図書を採択することに決定いたします。

時間も長くなりましたので、ただいまから15分間休憩を取らせていただきます。

時間も押していますので刻んで恐縮ですけれども、3時55分から始めさせていただきたいと思います。十二、三分になりますので、一旦休憩とさせていただきます。

〔休憩〕

教育長 それでは、再開させていただきます。

教科「音楽」、種目「一般」の審議、採決をいたします。

指導室長より説明がございます。

指導室長 教科「音楽」、種目「音楽（一般）」について、調査研究のまとめを御報告します。

「中学音楽 音楽のおくりもの」、教育出版でございます。内容につきましては、鑑賞の内容では、年表が掲載されており、西洋音楽を日本の歴史に比較して学ぶことができる工夫がなされております。

「中学生の音楽」、教育芸術社でございます。内容につきましては、様々な種類、ジャンルの音楽が網羅されており、世界の中での位置付けなども分かりやすく書かれております。

以上でございます。

教育長 それでは、教科「音楽」、種目「一般」についての御審議をお願いします。

小林委員、お願いします。

小林委員 音楽に関してですが、どちらの発行者もよく工夫されておられまして、どちらであ

っても学びに関しては問題ないという印象を持ちました。

まず、教育芸術社です。比較的に平易で基礎的な内容を充実させており、音楽を楽しむことができると思われます。あまり専門的になり過ぎないような工夫がされていて、こちらの教育芸術社のほうが基礎的な内容が充実しているという印象を持ちました。

2社目の教育出版ですが、非常にいいのですが、どちらかという、やや分析的な内容も含まれているという印象を持ちました。

総じて、比較的に平易で音楽を楽しむことができる点、また、荒川区でのアンケートあるいは現場の声としても、現行の教育芸術社は評判がよいという印象を持っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 教育芸術社のほうは、歌唱、創作、鑑賞などの各ジャンルのバランスがいいのではないかなと思います。

また、荒川区はお琴だとか学校によってそのような日本文化も大事にしているわけですが、箏曲や民謡、歌舞伎などの日本文化のところもかなり充実していると思います。

それからパート1で冒頭、上白石萌音さんが出ていて、学生たちも学びに入りやすいような内容の工夫もされているかと思います。

知識数で比べると教育芸術社のほうがたしか多い、そういう分析になっていて、教育出版のほうはそれに比べると楽譜や楽曲が次々と出てくる比較的シンプルな構成なのかと思いました。

私としては全体的に見て、教育芸術社のほうを推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 どちらも楽しく勉強できる教科書と思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 両社、A B変型判、それから第1学年で1冊、第2・3学年上で1冊、第2・3学年下で1冊の計3冊という点で両社全く同じです。それから、歌唱、鑑賞、創作について、両社は色分けして示しているわけですが、教育芸術社は鑑賞のまとまりの中に一部、歌唱の教材が入っております。

それから東京都教育委員会の調査研究資料によりますと、表現の教材数（曲数）ですが、それは教育出版のほうが若干多くて、鑑賞の教材数（曲数）は教育芸術社のほうが多くなっています。様々な種類、ジャンルの曲が取り上げられているのは両社に共通していますが、一つはページの見やすさです。それからもう一つは、これも東京都教育委員会の調査研究資料313ページに示されているのですが、共通事項の「思考力、判断力、表現力等」について示された箇所数、「知識」について示された箇所数、言語活動について具体的に示された箇所数、コンピューターや教育機器を活用する箇所数、これらはいずれも教育芸術社が上回っております。そういったことを考慮して、教育芸術社を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、私からも一言。「音楽」については一般も器楽合奏も2社の教科書ということになりますので、その2社の比較・検討という形にどうしてもなります。

その中で教育出版については長島委員もおっしゃったように、合唱曲数が多く、選択肢の幅が広がる点、また、歌唱、鑑賞、創作と全体の構成が3分割されておりまして分かりやすい点が評価できると感じました。

一方、教育芸術社については、曲の紹介や注意点、目当てなどが学習項目ごとに丁寧に記載されている点、「学びのコンパス」として理解を深める資料が盛り込まれている点が評価できると考えました。

それでは、「音楽」、「一般」について、採決に移らせていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 初めに、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、次に、教育芸術社がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

5名の方が教育芸術社に挙手をされましたので、教育芸術社の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「音楽」、種目「一般」につきましては、教育芸術社の教科用図書を採択することに決定します。

続いて、教科「音楽」、種目「器楽合奏」の審議、採決をします。

指導室長より、「器楽合奏」についての説明がございます。

指導室長 教科「音楽」、種目「音楽（器楽合奏）」について、調査研究のまとめを御報告します。

「中学器楽 音楽のおくりもの」、教育出版でございます。内容につきましては、「奏法の解説」「練習曲」「まとめの曲」を学びのユニットとし、学習しやすい工夫がなされております。

「中学生の器楽」、教育芸術社でございます。内容につきましては、「マイメロディー」にて、生徒が作曲しやすくなるヒントが掲載されております。

以上でございます。

教育長 それでは、器楽合奏について御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 器楽についてです。教育芸術社ですけれども、1点目として二次元コードで読み取れるデジタルコンテンツが非常に充実しているかと思っております。

2点目としては、学習のきっかけとなる参考資料あるいはエキスパートの方々からのメッセージなどがありまして、興味・関心、意欲を引き出す工夫があるかと思っております。

2社目、教育出版ですが、ここもQRコードで読み取れるデジタルコンテンツが非常に充実しておりまして、日本の楽器とアジアの楽器との比較などの動画も興味深く思われます。

どちらも甲乙つけ難いものがあるのですが、比較的平易で指導がしやすいように思われること、また、音楽が教育芸術社になっておりますので、それに合わせる形のほうがよいかと思われるので、教育芸術社がいいかと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 私も比較・検討しましたけれども、いずれも教科用図書として十分な内容だと考えました。

そうした中でバランスという意味では、教育芸術社のほうが荒川区でも重視している和楽器、これも結構取り上げていて、出てくる楽器のバランスがいいということと、それからほかのところでも全体的に取り上げているもののバランス感がいいかなということで教育芸術社のほうを推したいと思います。

教育長 繁田委員。

繁田委員 いずれの教科書も毎度のことですけれども、楽器の演奏の仕方の詳細な説明には感心するばかりです。選曲も幅広くいろいろな生徒の興味が向くようなものがバランスよく配置されていると思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 リコーダー、篠笛、ギター、箏、琴、三味線、太鼓など、楽器ごとに色分けして示しているというのは両社共通になっているかと思います。写真や図版を用いて分かりやすく示しているというのも両社共通していると思います。

ですが、「音楽（一般）」と同じ社がよいのではということから、教育芸術社かと思っております。

教育長 ありがとうございます。

それでは、私からも一言。教育出版については、コード表記が充実しておりまして、ギター一等を得意にする生徒たちにとっては学びやすい教本かと思いました。

一方で、長島委員が御指摘されたように、楽器の説明でリコーダーですとか琴などについて、説明がより丁寧に詳細に記載されている点ですとか、アンサンブル、合奏が充実しており、「学びのコンパス」などの資料も授業での活用が期待できる点については、教育芸術社が充実していると評価できると考えた次第です。

それでは、特にほかにはないようであれば、採決に移らせていただきます。

初めに、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、教育芸術社がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

5名の方が教育芸術社ですので、「器楽合奏」については、教育芸術社の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、「器楽合奏」については、教育芸術社の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「美術」、種目「美術」の審議、採決をします。

指導室長より、「美術」についての説明がございます。

指導室長 教科「美術」、種目「美術」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「美術」、開隆堂出版でございます。内容につきましては、題材を基本4ページで構成しており、授業の導入、知識や技能の習得、発想や構想のサポート、ふり返りまでの授業展開

を意識した紙面の構成が工夫されております。

「美術」、光村図書出版でございます。内容につきましては、題材を基本2ページで構成しており、「鑑賞」と「表現」相互の関連が意識され、一つの題材の中で一体的に学べる紙面構成の工夫がなされております。

「美術」、日本文教出版でございます。内容につきましては、題材を基本2ページで構成しており、教師が指導しやすいように造形的な見方・考え方に着目させる問い掛けをはじめ、学習活動の展開を工夫することができるようになっております。

以上でございます。

教育長 それでは、種目「美術」についての御審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 3社ともに非常に優れた教科書で、見ていて大変に楽しく見せていただきました。

まず、日本文教出版です。作品の数が多く、特に生徒の作品が多いと思います。美術におきましては、ほかの生徒の優れた作品を紹介して、生徒たちに自分たちでも創ってみようという意欲を喚起することが重要と思われるので、その点は非常に優れていると思いました。

2点目ですけれども、QRコードで読み取るデジタルコンテンツも工夫がされておりまして、その点も非常にいいと思いました。

2社目、開隆堂ですけれども、QRコードで読み取るデジタルコンテンツが非常に充実しておりまして、美術館へのリンクが充実している点も優れていると思いました。

3社目は光村図書です。光村ですけれども、引きつける迫力のある図が多いと思っております。また、作品鑑賞として「風神雷神」の大きな画面がありまして、この音声ガイドのナレーションなども非常によく、歴史好きあるいは鑑賞するのが好きな生徒には非常にいいのではないかという印象を持ちました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 まず開隆堂ですけれども、特に2、3年生になると優れた素材をどんどん提供するとか、そういうところが印象に残りました。

それから光村図書ですけれども、鑑賞とそれから表現の構成がいいと思います。日本の絵画について、手触り感のある特別な紙を使って挟み込まれていて、その辺のところは工夫があると思いました。

技法のところは別冊の資料編になっていまして、実際に創ってみるとか見てみるとかは資料編を参照する必要があるという構成になっています。

日本文教出版のほうは、そのような光村図書では資料編になっているようなものも本体の中に取り込まれていて、先ほど小林委員の指摘にもありましたけれども、実際にほかの子どもたちが創るようなそういったたくさん作品なども写真で紹介されていて、子どもたちから見ると、身近な感じがよりするのではないかと思いました。

それから学習の目標が「そのものらしさを形にして」とか、それから1年の18ページですけれども、「人間っておもしろい」とか、テーマの設定がなかなかよくて、子どもたちにとっても取っつきやすいかなと思いました。

あと、1年の40～43ページの「いろいろな文字」とか、それから「あなたの美をみつけて」とか、このような子どもたちにある種の多様性というのですか、表現の多様性を教えるようなところも優れていると思いました。

現在デジタル化する中で、自分で表現できる媒体がどんどん増えている中で、このようなデザインは非常に重要になっているわけですが、そういう観点から見て、私は日本文教出版を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 3社いずれも楽しく拝見しました。特に、光村の日本画の掲載のところは、紙を日本画にふさわしいというか、もちろん和紙ではないのですけれども和紙に近い紙質のものを使っていて、これはすごく配慮していいなというのをとても強く感じました。

その一方で、名画、名作を各時代というか、各流派というか、各領域で広く選んでいるという観点からすると、開隆堂と日本文教出版が印象に残って、強いて私の印象からすると、日本文教出版の作品たちを生徒さんに目を通してもらいたいと感じました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 多数の作品について、美しい写真を配置していて、ページをめくっていて勉強になるというか、楽しいというか、そういう教科書になっていると思いました。

全体的な印象ですが、まず、開隆堂は表紙に凹凸がありまして工夫されていると思いました。

光村図書出版は、身近なところから、生徒に近いところから入っているという印象を受けました。

日本文教出版は、若干ですが、余白の白が多いという印象を受けたところもあります。

光村図書のみ別冊の資料が用意されていますが、3社の違いの一つは、選定調査会の調査研究報告書にも示されていますように、開隆堂が題材を4ページを基本として構成しているのに対して、光村図書と日本文教出版は題材を見開き2ページを基本として構成しているところにあるのだと思います。開隆堂の4ページはページごとに、「鑑賞」、「発想・構想」、「知識・技能」とまとめられています。

3社それぞれのよさがあると思います。総合的な判断ということになりますが、光村図書出版、開隆堂、日本文教出版の順かと思っています。

教育長 ありがとうございます。

では、私からもお話をさせていただきます。美術については、作品を制作するものが中心になりますが、併せて、作品制作の過程で、他の生徒たちあるいはまた芸術家の作品を鑑賞するという形で活用する教科書としてどれがふさわしいのかということで見させていただきました。3社とも構成が2分冊であったり3分冊、3分冊の中でも一つを資料集としたものということで、3社それぞれ工夫を凝らして編集がされておりました。

その中で、日本文教出版は、表現、鑑賞とともに優れた掲載作品が数多く掲載されており、テーマも豊かで学習活動の参考にしやすいのではないかと感じました。画面構成もくっきりしており、見やすさという面でも優れている印象を受けた次第です。

それでは、一通り御意見を頂いたところで採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

続いて、光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

では、日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 4名ですね。

4名の方が日本文教出版に挙手をされましたので、「美術」については、日本文教出版の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、教科「美術」、種目「美術」につきましては、日本文教出版の教科用図書を採択することに決定します。

続いて、教科「保健体育」、種目「保健体育」の審議、採決をいたします。

指導室長より、「保健体育」について、説明がございます。

指導室長 教科「保健体育」、種目「保健体育」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい保健体育」、東京書籍でございます。内容につきましては、様々な資料が抱負に掲載されており、思考させる学習や発展的な内容を学習することができる工夫がなされております。

「中学校保健体育」、大日本図書でございます。内容につきましては、「学習のねらい」が分かりやすく、授業の導入で話合いや簡易的な調べ学習に取り組めるようになっております。

「最新 中学校保健体育」、大修館書店でございます。内容につきましては、章毎の「章のまとめ」に、3つの資質・能力の観点に分けた問題があり、その章の学習を振り返ることができ、評価につなげられる工夫がなされております。

「新・中学保健体育」、Gakkenでございます。内容につきましては、ウォームアップ・学習の課題・本文・エクササイズ・学びを生かすという5段階の構成になっている工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 それでは、「保健体育」につきましての御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 保健体育ですけれども、時間が限られているということもありますので、コンパクトな内容で分かりやすい点を重視しながら選びました。

特に、3社が印象に残りました。まず、1社目、大修館です。大修館ですけれども、性教育についての項目が充実しておりまして、これは東京都の教科書調査研究資料でも、大修館は性教育の項目が充実しているということが示されております。性教育に関しては、少しデリケートで取り上げにくい部分がありますので、教科書で丁寧に記述してもらったほうが助かるという現場の意見もございました。

2社目、Gakken教育みらいです。ここは、課題をつかむ、調べる、まとめる、深めるというポイントが示されておりまして、生徒が主体的に学ぶ方向性が示されております。

3社目、東京書籍です。地域性ということで、南千住第二中学校防災部の取組が紹介されておりまして、このような点でもありがたいと考えております。

全体として勘案して、大修館がよいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 全体の内容としてはいずれも、4社とも甲乙つけ難いかと。それぞれ特色があって、それぞれのよいところがありますので甲乙つけ難いかと考えました。

その中で先ほど小林委員の指摘にもありましたけれども、保健体育については実技もありますので実際に教科書を使える時間も限られているということ想定しますと、やはり使いやすさということが重要になってまいります。そういった視点でもう一度見てみますと、大修館はメインの説明文があって、それから資料やコラムのようなものあって、最後に学習のまとめとして構成されていて、資料やコラムはそれぞれ個別にくくり出されていますので、必要によって使うということで教えられるような構成になっています。こういった形がやはり短時間の中で教えていくにはシンプルで使いやすいのではないかと思います。

それから一部に掲載されている体育理論もなかなかよいのではないかと思います。

それから先ほどもありましたが、1年の43ページには、性的マイノリティの人たちが抱える悩みといったような現代的なテーマも設定されていて、相対的に見て教えやすさを重視すると大修館書店のものが一番よいのではないかと考えたところです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 私も大修館が印象に残りました。それともう一つはGakkenも印象に残りました。どちらも共通していいと思ったところは、障がい者スポーツの取上げ方が清々しくてよかったなと思います。あまり暗い感じではなくて前向きに取り上げられていて、こういう形で生徒たちが障がい者の人のスポーツを受け取ってもらえたらということです。

小林委員がおっしゃったように、大修館に関しては人間の生殖機能などが非常に詳しく取り上げられているので、恐らく先生によって内容を選んで教えてことができるかと思いました。場合によっては若い先生でなれていないと負担に感じるかもしれないので、少しその辺は先生方によって使い勝手は違ってくるかと思います。

全体として、教科書として見やすいということを考えると、私はGakkenの教科書が見やすく生徒たちが取り組みやすいかと思いました。

保健体育ですので健康ということが一つのテーマですので、もう少しスポーツに限らず障がいとか病気があって生きていくということがどういうことなのかというのを取り上げてもらえると、障がいがある方の偏見とかの払拭につながるのではないかと思いますので、それは今後の期待ということで、今回に関しては両社というか2つ、Gakkenと大修館と迷ったところで私はGakkenを推そうかと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 私は4社の各単元、見開き2ページの構成について着目しました。

東京書籍は、学習課題を確認する「見つける」、それから学習課題を受けて課題解決に取り組む「課題の解決」、学習したことを自分の生活に当てはめたり、さらに調べたりする「広げる」という3段階で構成されています。

大日本図書は、見開きの左ページで「学習のねらい」、学習の初めに行う興味・関心を高める活動である「つかもう」ですね。それと本文が示されていて、右ページは本文はなくて「やってみよう」、それから「話し合ってみよう」「調べてみよう」ということで資料が示されています。

大修館書店は、「課題をつかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」という流れで、左右両ページに本文と資料が示されています。

G a k k e nは「ウォームアップ・課題の発見」、「エクササイズ・課題の解決」、「学びを生かす」学びの活用という流れになっています。

第1学年の「心身の発達と心の健康」というところを中心に見ましたが、本文と資料の内容や構成、ページの見やすさなどを考慮して、大修館書店かと思っています。

教育長 ありがとうございます。

私は4社の教科書を比較・検討する中で、保健体育については授業時間数も限られている中で、生徒たちに分かりやすい教科書はどれかという視点で、簡潔明瞭という視点を重視して比較・検討をいたしました。

その中では、大日本図書とG a k k e nがいいのではないかと思います。丁寧な記述の中にも、生徒たちに何を学んでほしいか、何を気を付けてほしいかという視点で、健康の保持・増進、あるいはまた、薬物被害や感染症の防止などについて簡潔明瞭に記されていると感じた次第です。

それでは、採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、次に、大日本図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

大修館書店がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

G a k k e nがよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 2名ですね。

3名の方が大修館書店に挙手をされましたので、大修館書店の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、教科「保健体育」、種目「保健体育」につきましては、大修館書店の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「技術・家庭」、種目「技術分野」の審議、採決をいたします。

指導室長より、「技術分野」についての説明がございます。

指導室長 教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭（技術分野）」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」、東京書籍でございます。内容につきましては、生徒の発達の段階に合わせて、身の回りから社会問題まで収録されております。

「新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」、教育図書でございます。内容につきましては、系統的な配列であり、技術分野の見方・考え方を働かせて問題解決能力が身に付く構成の工夫がなされております。

「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」、開隆堂出版でございます。内容につきましては、「見方・考え方」「技術のしくみ」等の図やワークシートがあり、技術の見方・考え方を働かせて学習内容を深められるような工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 「技術・家庭」、種目「技術分野」についての説明でした。御審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 3社とも非常に優れていると思ったのですが、完成度の高さ、また、レイアウトあるいは細かい工夫で2社が印象に残りました。

1社目、開隆堂です。スキルに関する指示が非常に丁寧で、道具の使い方、あるいは材料を加工するとき、加工のための動作のポイントであるとか、あるいはミニトマトの植え付

けの仕方とか、そういった細かい作業についての説明が充実していると思われました。

2社目、東京書籍です。主体的な学習活動を進める工夫がされており、また「考えてみよう」「話し合ってみよう」などの活動が設定されておりまして、深い学びを実現する工夫があると思われました。

どちらも甲乙つけ難いところではありますが、実験などの手順が分かりやすいということから、開隆堂と現在の段階では考えております。

以上です。

教育長 坂田委員。

坂田委員 技術・家庭の技術ですけれども、私は、一つキーワードとしては、最適化もしくは仕組み、システム、そのような考え方が非常に重要と思っています。最適化とかシステム思考というのは、技術に対して社会から、または市場から多様な要求があるのですけれども、そのようなものを全体を考えて最適なものを構築していくというか、そのようなコンセプトです。

それからもう一つは、やはり現在、技術と社会の関係というのが非常に多くのところで取り上げられるようになっていきますので、技術と社会の関係性について多めに取り上げていくようなことが今は重要になっているかと思えます。

そういう意味で、東京書籍ですけれども、総論の19ページに「最適化の窓」というものがあって、まさに先ほど申し上げた社会からの要求、安全性、環境負荷とか経済性、このようなものについて総合的に考えていくという視点が出ています。

それから全体として、技術と社会の課題解決のつながりを強く意識した構成になっていると思えます。

情報のところは紙面は結構あるのですけれども、今、話題になっているAI、データサイエンスとかそれからディープラーニングとか、そのところは最後のほうにあるのですが、その重要性の高まりに比して取上げ方が少ないかと思えました。

それから教育図書は、別冊を含めると非常にボリュームがあって、内容的には一番多いのですけれども、やはり教える時間数を考えると、内容が多くて選択をしながら先生方が教えていけないといけないので、少し教育上、難易度が高いかと思えました。

開隆堂ですけれども、13ページのところに、多角的な視点からの仕組みの最適化ということが充実した形で記述をされておりまして、また、各技術について手順などの説明がかなり充実していると思えます。

情報のパートについては、全体として分かりやすく教えていて、今重要となっている高度化であるとか、画像等のデジタル化、それから画像のピクセルなど、このようなものについ

て、写真などを効果的に使ってイメージが分かる形で表現をされていることが評価できるか
と思います。

全体として見ますと、私としては開隆堂を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

繫田委員。

繫田委員 いずれの教科書もきれいな写真等が多用されていて見やすいと思ったのですが
も、例えば、歴史とか社会の教科書などと違って、この科目は現物を前にして作業をする
ときに、手順を参照したりやり方を学んだりするということからすると、そちらよりはむしろ
作業中に開きやすく、見やすくというほうが直感的にも理解しやすいとか、そういう
ところのほうが大事なのかと思ひまして、それを観点に改めて教科書を開いてみて印象に残
ったのは、1番、東京書籍、2番、開隆堂でした。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

長島委員。

長島委員 版型ですが、東京書籍と開隆堂がA B判で、教育図書はA B判より横が少し短くて、
縦が少し長くなっています。3社、ガイダンスから始まって、「材料と加工の技術」、「生
物育成の技術」、「エネルギー変換の技術」、「情報の技術」の順で構成されていて、本文
と写真、それからイラスト、図表といった資料が適切に配置されていると思ひました。

色合いですが、東京書籍がやや抑え気味という印象を受けました。

実際に手を動かすということが重要と考えて、「材料と加工の技術」の章を中心に見まし
たが、木材の加工について、けがき、切断、切削、穴開け・溝ほり、組み立てなどについて、
私は開隆堂の本文と資料が充実していて、教育図書がそれに次いで、東京書籍は簡潔なもの
になっていると思ひました。

「情報の技術」の章では、開隆堂と教育図書が本文に合わせて資料として写真も用いなが
ら、分かりやすいものになっていると思ひました。

本文の記述、その理解を助けるための写真やイラストなどの構成という点から、開隆堂か
と思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

では、私からもお話しをさせていただきます。

技術分野については、ものづくりですとか、生物の育成ですとか、情報技術などの基礎知

識の習得を通して、生徒たちが想像する喜びを感じたり、将来の自立した生活に役立つ情報を学び取るために、最も有用な教科書はどれかということで3社を比較・検討いたしました。

東京書籍については、紙面構成がすっきりしてしまして、全体を見通しやすいということがある一方で、開隆堂については、ページが色鮮やかで、本文、図、イラスト等が見やすく感じられました。学習課題や目標も最初にはっきりと示されており、学びに役立つのではないかと、また、欄外の豆知識ですとかチェックの活用も有効ではないかと感じた次第です。

それでは、御意見が出たところで採決に移らせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

教育図書がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。

4名の方が開隆堂出版に挙手をされましたので、開隆堂出版の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「技術・家庭」、種目「技術分野」につきましては、開隆堂出版の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」の審議、採決をいたします。

指導室長より、「家庭分野」についての説明がございます。

指導室長 教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭（家庭分野）」について、調査研究のまとめを御報告します。

「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」、東京書籍でございます。内容につきまして、生徒の発達の段階、身の回りの興味・関心を踏まえ、自立から共生へ向かうように「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」「A家族・家庭生活」で構成されている工夫がございます。

「新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する」教育図書でございます。内容につきましては、学習指導要領に準じてA編、B編、C編と表記され、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の順序で掲載されており、それぞれの内容を相互に関連

させて学ぶことができる工夫がなされております。

「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」、開隆堂出版でございます。内容につきましては、学習指導要領に準じてA編、B編、C編と表記され、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の順で構成されており、ガイダンスと「A家族・家庭生活」は、関連させて学習することができる工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」についての説明でした。御審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 家庭科でございますが、授業時間数が限られておりますので、授業で使えるような課題あるいは題材が多いかどうかといったことが大事かと思ひまして、その観点から、東京書籍が開隆堂、この2社が印象に残りました。

まず、東京書籍ですけれども、学習活動の中で、4つの見方・考え方がマークで示されておりまして、これらの視点から多面的に考えることで、生徒の問いを引き出しやすい工夫がなされております。生徒の主体的な学習を促す内容になっているかと思ひます。

2社目、開隆堂です。1点目ですけれども、デジタルコンテンツのレベルが高いと思ひております。デジタルコンテンツが非常に充実しておりまして、調理法なども動画になって便利であると。2点目としては、コンパクトにまとまっていると思われます。

2社印象に残ったのですが、どちらであってもいいと思われるのですが、荒川区の実際を考えると、相対的にコンパクトにまとまっていて、写真、イラストも見やすいのは開隆堂のほうかと考えております。

以上です。

教育長 坂田委員。

坂田委員 私も選考の視点としては小林委員と全く同じです。3社比較した結果、それぞれ特徴があって捨てるのはあるのですが、私としては開隆堂が一番いいかと思ひました。紙面構成に余裕がある感じがございます。その上で、内容のバランスがよいのかと思ひました。調理のところは非常に充実しているように思ひます。

現代的な大事な視点やキーワードといったものも適切に表現をされておりまして、例えば、29ページの「ウエルビーング」、それから31ページの「ヤングケアラー」、それから71ページの「子ども食堂」といったようなことです。こういったところの記述も適切ではないかと思ひました。

繰り返しになりますが、私としては総合的に見て開隆堂を推したいと思ひます。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 これも技術と同じで、作業するときに見やすく分かりやすいものという視点で見ました。私も小林委員、坂田委員と同じように、開隆堂が本を開いたときに、直感的にどういふ順番で何をすればいいかというのがぱっと目に入ってくるのが開隆堂という印象を受けましたのでこの教科書がいいと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 開隆堂と教育図書は学習指導要領に即して、おおむね「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」といふ順序、構成になっています。

東京書籍は、「家族・家庭生活」を最初と最後に、といふのは、「未来につながる家庭分野」といふのを第1編に、「私たちの成長と家族・地域」といふのを第6編に配置する構成となっています。

版型は技術分野と同じように、東京書籍と開隆堂がA B判で、教育図書はA B判よりも横が少し短くて、縦が少し長くなっています。

3社の本文と写真、イラスト、図表などの資料が適切に配置されていると思いますが、色合いは東京書籍が抑え気味で、開隆堂と教育図書は鮮明かと思ひます。

食生活に関する章を中心に見ましたが、本文の記述、その理解を助けるための写真、イラストなどの構成といふ点で、開隆堂と教育図書が甲乙つけ難いと思ひておひます。

教育長 ありがとうございます。

では、私からも一言。技術・家庭、家庭分野については、家庭や地域との関わりの中で、よりよい生活を送るための基礎的な理解を身に付けるとともに、衣食住についての具体的・実践的な活動を通して、自立した生活を送る能力を育成するのに最も役立つ教科書とはどれかといふ視点で読み込みました。

その中で結論的に申し上げますと、開隆堂出版は、消費者教育や防災教育に関する記述に見られるように、具体的かつ詳細で生徒たちが理解しやすい内容となっていること、「やってみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」「発表してみよう」といった具合に、生徒たちの主体的な学びを引き出す工夫が凝らされており、最もふさわしいのではないかと考えた次第です。

それでは、御意見を一通り頂いたところで、採決に移らせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、次に、教育図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

5名の方が開隆堂出版に挙手をされましたので、開隆堂出版の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「技術・家庭」、種目「家庭分野」につきましては、開隆堂出版の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「外国語」、種目「英語」の審議、採決をいたします。

指導室長より、「英語」についての説明がございます。

指導室長 教科「外国語」、種目「英語」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「NEW HORIZON English Course」東京書籍でございます。内容につきましては、単元末のゴール活動に向かって言語活動を積み上げられるように構成されております。

「Sunshine English Course」開隆堂出版でございます。内容につきましては、単元末で本文に関連した自己表現活動が設定され自己の学びの成果を実感できる工夫がなされております。

「NEW CROWN English Series」三省堂でございます。内容につきましては、中学校の学びへの接続を意識した小中連携パートを提示する工夫がなされております。

「ONE WORLD English Course」教育出版でございます。内容につきましては、「Lesson」の冒頭に目標を明確にし、終わりに、作文、発表する構成になっております。

「Here We Go! ENGLISH COURSE」光村図書出版でございます。内容につきましては、巻末に学び方ガイドが掲載され、つまづきや家庭学習の仕方に関する助けがございます。

「BLUE SKY English Course」新興出版社啓林館でございます。

内容につきましては、発展教材で、各技能領域の力、実生活に即したコミュニケーション能力が育成できる工夫がございます。

以上でございます。

教育長 ただいま「英語」についての説明がございました。御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 英語ですけれども、6社それぞれに大変に優れた教科書かと思って見せていただきました。特に3社が印象に残りました。

まず1社目ですけれども、光村「Here We Go!」です。1点目として、この教科書のコンセプトとして、英語を使う楽しさを体験しようというコンセプトが非常に明確に出ていることです。1年の最初の導入の部分ですが、なぜ、英語を学ぶ必要があるのかということで、世界で最も通用していると、したがって、間違いを恐れずに英語を使って楽しさを身に付けようというのが導入にありまして、これは非常に重要だと思っております。

2点目として、重要な部分を分かりやすく伝える工夫がなされております。言葉でコミュニケーションをするときに、表情豊かに、目と目を合わせてはっきりとした声で、相手の言葉に反応しながらコミュニケーションをするのが重要なのですが、これを写真で分かりやすく説明していると思われま。

3点目としては、コンパクトにすっきりとまとまっております、あまり盛り込み過ぎていない印象があり、取扱いやすいという意見が現場の声としてあるかと思えます。

4点目として、読ませてもらいますと、非常に魅力的なコンテンツがありまして、後ろのガイドの部分で、英語の学び方とか、あるいは会話を続けるコツなどがありまして、非常に魅力的かと思えました。これが1社目です。

2社目ですが、三省堂です。まず1点目として、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4つのバランスが取れている教科書ではないかと思っております。

2点目としましては、教科書に書き込めるのでワークシートの作成が不要で便利という意見が現場の声としてもありました。

3点目として、取り扱っている単語数に関しては必ずしも少なくはないといつか多いのですけれども、荒川区は小学校から英語に力を入れてきた区でもあるので大丈夫かと思われま。

3社目ですけれども、開隆堂「Sunshine」です。まず1点目としては、各単元の前にゴールが設定されておりまして、各ページにゴールが達成できたかどうか、自分で確認するといったそのような工夫がされております。

2点目として、開隆堂ですが、指導しやすい、教えやすいという意見がアンケート等でも

あったと思っております。

総体的に考えると、光村がいいかとは思われるのですが、判断がつかないところがありますので、先生方の議論をお伺いして再度考えたいと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 まず、私は全体を比較・検討した結果、3つの教科書に注目いたしました。

一つは、三省堂の「NEW CROWN」ですけれども、構成が分かりやすく授業を進めやすいのではないかと考えました。それから単語については絵で示されていて、単語を羅列するよりは子どもたちも親しみやすいのではないかと思います。

それからグローバルな活動のような場面の設定です。この辺のところの内容は非常によいのではないかと思います。3年生になると主題に、外交や文化的、活動的な深みが増してくる構成になっています。

その際に当然ハードルも上がるわけですが、挿絵がリーディングのハードルを下げていてと感じました。ただ、文法についてはやや説明が少ないのではないかとというのが印象です。

それから光村の「Here We Go!」ですが、構成は分かりやすいものになっています。同様に、挿絵が効果的に使われていてリーディングの際のハードルを下げている印象があります。

説明が吹き出しになっているのですが、このところは少し評価は分かれるのかと私は思いました。

文章での説明がその分やや少ない印象です。内容のいい点としては、使える日常表現が非常に多く盛り込まれているところです。

それから3番目は、「NEW HORIZON」東京書籍ですが、構成が一番シンプルなものになっていまして、授業を担当される先生方は使いやすいのかと思いました。それからグラマーの説明ですけれども、三省堂よりはやや多めになっています。それから対話とか教室でそのようなものを実際にやってみたりするのではないかと思いますけれども、そういったシーンの設定は分かりやすいものになっています。

3年生になるとかなり具体性のあるリアルな 이슈を取り上げていまして、このイシューの中では、学生の皆さんから取っつきやすさについてはばらつきがあるのではないかと感じたところです。

私としては全体的に見て、「NEW CROWN」三省堂、または「NEW HORIZ

ON」東京書籍、いずれかと思っています。

教育長 繫田委員。

繫田委員 小林委員、坂田委員の御指摘に加えて私が印象深く思いましたのは、どれだけ単語とかセンテンスが目にしかり入ってくるかというところで教科書を見てみました。英語でするので発音もありますけれどもそれは先生にお任せして、スペリング、それが単なる文字の大きさであるとかフォントではなくて、多分、紙の質とか色とか印刷の色なのかもしれないのですけれども、ページをぱっと見て、目を閉じたときにイラストが印象にどちらかという残りやすい教科書と文字が残る教科書とあるように思いました。文字が残るほうを選びました。ページによっては裏側のイラストとかは透けて見えるので少し見にくかったりするので、それでも見やすい教科書というのを選ぶと、私の中では三省堂が、一番、目に鮮やかにセンテンスが残って、生徒たちの印象にも残るのではないかと思いました。余白のバランスもよくて、目が疲れないうようにも感じました。

東京書籍、光村もとてもとてもすばらしい教科書と思いましたがけれども、私の印象は以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 各社の版型ですが、東京書籍、開隆堂、三省堂、啓林館がA4判で、教育出版と光村図書出版がA5判になっています。A4判のほうが情報量が多くても見やすいという印象を受けます。

単元の構成について、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの5つの領域から見ると、東京都教育委員会の調査研究資料に示されているのですが、東京書籍は聞くことの活動が少なく、読むことの活動が多くなっています。

開隆堂、三省堂、光村図書、啓林館は、聞くことの活動が多く、その他の活動の割合も似たような傾向にあります。

教育出版は、読むことの活動が多く、書くことの活動が少なくなっています。

取扱い語数は、最も多いのは啓林館で2,661、最も少ないのは東京書籍で1,786です。

これらのことも踏まえて、本文やイラスト、写真の配置、色合いなどによる見やすさという点から、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3社に絞って、各単元の構成を中心に検討しました。

東京書籍は、単元の冒頭で、単元で学ぶ表現がどのような「目的・場面・状況」で使うかを確認し、次に文法を学んだ上で、まとまった分量の本文を読んだり、考えたりする活動が

あって、最後に、「Unit Activity」となっていますが、話し合ったり発表したりする発信の活動になっています。また、幾つかの単元のまとめとして「Stage Activity」というのが設けられています。

三省堂は、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりしながら文法事項を身に付けることから始まって、次は話すことになり、それから「Goal Activity」として、読むことと話すこと、読むことと書くことで単元が終わります。幾つかの単元のまとめとして、三省堂は「Project」というのが設けられています。

光村図書出版は、単元の大筋をつかむことから始まって、内容が見開き2ページずつで、左ページで聞くこと、読むことがあり、右ページで、聞いたり、話したり、書いたり練習となっています。単元の終わりは単元の目標に応じて、聞くことや話すこと、書くことの活動になっています。幾つかの単元のまとめとして、「You Can Do It!」というものが設けられています。

この3社についてですが、授業の進めやすさという点では、三省堂か光村図書ということになるかと思うのですが、三省堂かと思っております。

教育長 ありがとうございます。

私は、英語については、聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと。話すことについては、話し合いすること、発表すること。それぞれの領域がバランスよく学習できる教材であるとともに、発達段階や英語についてはかなり生徒たちの中で能力の違いもありますので、その能力に応じた幅広い活用ができる教科書であってほしいという考え方の下、6社を比較・検討いたしました。

その中で印象に残ったのが、東京書籍はデジタルコンテンツや巻末の資料が充実しておりまして、自習学習や学びの振り返り、あるいはまた発展的学習に活用しやすいのではないかと考えました。

また、三省堂については、単元ごとに、文法の確認や聞くこと、話すこと、書くことなどの目標が明確に示されておりまして、学びやすい、先生たちも授業がしやすいのではないかと考えました。また、デジタルコンテンツには、自分の発音をAIによって自動チェックできるそのような工夫も凝らされておりまして。

また、光村図書出版については、帯教材として、「Let's Read More」とか「Let's Talk!」英語の学び方ガイドが付けられておりまして、授業にも活用できますし、あるいはまた自分の自宅学習等での活用も可能な資料となっております。

その3社が特に印象に残りました。

それでは、御意見は一通り伺った中で、採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

三省堂がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

3名の方が三省堂に挙手をされましたので、三省堂の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「外国語」、種目「英語」につきましては、三省堂の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」の審議、採決をします。

指導室長より、説明がございます。

指導室長 教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい道徳」東京書籍でございます。内容につきましては、「Plus」では、教材と関連したテーマをさらに進化・拡充させるコラムが充実しております。

「中学道徳 とびだそう未来へ」教育出版でございます。内容につきましては、全教材に「導入」「学びの道しるべ」が設けられ、見通しを持って学習できるように工夫がされております。

「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」光村図書出版でございます。内容につきましては、小学校の教材が掲載され、小学校からの自身の成長について考えることができる工夫がなされております。

「中学道徳 あすを生きる」日本文教出版でございます。内容につきましては、各教材で

は、気づく、考える・議論する・深める、見つめる・生かすの3ステップの学習の流れになっており、生徒が1時間の見通しを持ちやすくなっております。

「新版 中学生の道徳 明日への扉」G a k k e nでございます。内容につきましては、教材の前に主題名を置かないことで、自ら課題を発見し、主体的に考えることができる工夫がなされております。

「中学生の道徳」あかつき教育図書でございます。内容につきましては、「いじめ」「情報モラル」「キャリア」など、現代的な諸課題のカテゴライズで発達の段階に合わせた教材が示されております。

「道徳 中学校」日本教科書でございます。内容につきましては、4つの内容項目を基に、発達の段階に応じた思考のテーマが設けられ、それに準じた教材が選定されております。

以上でございます。

教育長 ただいま「道徳」についての説明がございました。御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 選定に当たりまして、留意した点について最初に述べたいと思います。

1点目ですが、まず、考える道徳、議論する道徳を重視をして選定をさせていただきました。いろいろな意見を出し合い、違った立場があることを理解する。その上で、どのように尊重し合いながら生きて行けばいいのかを考える道徳であってほしいと思っております。

2点目、時間数が限られているので、指導しやすさが重要と考えました。

3点目、自分に少し自信を持てるようなコンテンツが含まれた教科書がいいと思っております。

7社あるのですが、7社ともに非常に優れた教科書と思われまして迷ったのですが、その中で2社が印象に残りました。

1社目ですが、東京書籍です。東京書籍の1点目ですが、教材の長さが適切で教材はあくまでも導入的な位置付けとなっております、作品を通じて自分のことを振り返るということを重視しております。

2点目ですが、作品の後ろの問い、中心発問ですが、簡潔で、まず1点目が「考えよう」、2点目として「見つめよう」となっております。作品の読解と自分自身の振り返りに関わる2つから構成されておまして、その意味で作品を読んで、その後、自分自身を振り返り、さらに議論する時間が確保できるというメリットがあるように思われます。

2社目は光村図書出版です。1点目としては、情報モラルや現代的な課題を扱っている点です。

2点目としては、コンテンツが非常に魅力的で、例えば、QRコードで読み取ると朗読が

聞けるといった魅力的なコンテンツも含まれております。

3点目として、絵本作家、イラストレーターのヨシタケシンスケさんの活用ということで、自分は自分でいいという自信を持たせてくれるそのような内容となっております。

ただし、光村に関しては中心発問の数が多く、少し国語のような印象を受けます。

全体として考えますと東京書籍ですが、コンパクトにまとまっており、また、現在使用されており、使い勝手よいという意見もあるようなので、東京書籍がいいかと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員。

坂田委員 道徳については、決まりとしてこういうものがないという事項はゼロではありませんけど、やはり場面やそれから置かれた環境によって判断が異なってくるなど様々な考え方があって、その中で個人が自分の道徳心に基づいて選び取っていくというか、そのようなものであると思います。

そういう性格の教科を学んでいくときにどのような教材がいいのかということを中心に考えました。

まず、日本文教出版ですけれども、問題設定、それから題材があって、「考えてみよう」、それから追加的な材料が必要に応じて提供されているということで、流れがなかなかいいのではないかと考えました。漫画も多めに使われています。

題材についてですが、題材を読みますとなかなかよいものが多いと思います。例えば、1年生の128ページに、「その声は」という言葉があるのですが、家族の身近な問題であって、そこで取り上げている内容もなかなか示唆的だと感じました。こういった環境でない方にとっても示唆的ではないかと思えます。

それから2番目が光村図書ですけれども、これは題材を中心にじっくり学ばせる構成になっていまして、小林委員の指摘にありましたけれども国語に近いという、そういうところがあると思います。ただ、同時に漫画などが結構使われているところも特徴かと思えます。

内容について見ていきますと、これもやはりなかなか示唆的なものが多くて、先ほどお話ししたようなことをみんなで一緒に考えながら学んでいくのに適した題材がたくさんあると思えました。

私としては、いずれかがよいかと思っております。

教育長 ありがとうございます。

繫田委員。

繫田委員 私が印象に残りましたのは、G a k k e nと光村でした。どちらも題材が簡単に整

理をして答えを出せるようなものではなくて、余韻を残して後々まで考え続けられるような題材を取り上げているところがとてもいいと思いました。

特にいじめに関する扱いは丁寧に、しかも温かい目で見られるように、両者を、いじめられるほうもいじめるほうも温かい目で見られるような視点を提供しているように思って、そこがとてもいいと思いました。一般社会でもハラスメントはいまだにというか今後とも大きな課題ですので、中学の思春期のこの時期からそのことを丁寧に感じておいてほしいという願いもあります。

G a k k e nが光村かどちらかというところで迷っているところです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 7社についてですが、いじめ防止に関する内容、スマホを含めた情報モラルに関する内容について着目しました。東京都教育委員会の調査研究資料には、「情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材」というのがまとめられています。それによりますと、いじめ防止に関する内容を扱っている教材は、東京書籍が10、教育出版8、光村図書31、日本文教出版15、G a k k e n18、あかつき教育図書15、日本教科書7と社によって少し違いがあります。

情報モラルに関する内容を扱っている教材は、東京書籍7、教育出版9、光村図書10、日本文教出版9、G a k k e n8、あかつき教育図書8、日本教科書8と、大きな違いはありません。

いじめ防止に関する内容については、G a k k e nと日本教科書以外の5社がユニット、まとまりを設けています。東京書籍は「いじめのない世界へ」、教育出版は「いじめをなくそう」、光村図書は「いじめを許さない心について考える」、日本文教出版は「いじめと向き合う」、あかつき教育図書は「『いじめ』を考える」というユニットで各社の取組の姿勢が示されているのだと思います。

読み物教材については、「銀色のシャープペンシル」とか「二通の手紙」「足袋の季節」、「バスと赤ちゃん」、「夜のくだもの屋」、「ネパールのビール」、「卒業文集最後の二行」、「仏の銀蔵」、それから杉原千畝に関するものなど、共通に取り上げられているものも目立ちます。

各社の特色として、日本文教出版が別冊で「道徳ノート」を用意していること、東京書籍は巻末に「心情円」を、日本教科書は巻末に「ウェルビーイングカード」を付けているといったような特色があります。

総合的な判断ということになってしまいますが、全体を見て、東京書籍、それから光村図書、内容がシンプルな日本文教出版の3社かと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私も先生たちと少し似てしまうのですが、道徳の教科書選定に当たって、7社それぞれ興味深い課題、感動的な物語等を数多く掲載されていて、それぞれ生徒たちに読ませたいという教材ばかりですけれども、とりわけいじめと情報モラル教育について充実している教科書に心をひかれました。

例を挙げれば、光村図書出版については、教材を紹介するだけでなく、その教材を通して、生徒たちに考えさせ、話し合わせ、見方を変えてみて、次につなげるという一連の中で、いじめ問題、情報モラルについて学びを深め、定着させようという意図が感じられました。委員の何名の方からお話しがありましたが、若干、国語と少し似ているという印象を受けました。

一方、日本文教出版については、教材の学習から発展した「視野を広げて」というコーナーを設けており、生徒たちに深く考えさせる内容を提示しているのがとても印象的でした。

また、東京書籍はページ構成がすっきりしていて見やすいという点、また單元ごとに「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」という設問を設けておりまして、「Plus」として発展的学びを提示しております。また、全体的にデジタルコンテンツも大変充実しているという印象を受けました。

それでは、一通り御意見が出たところで、採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 2名ですね。

それでは、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では、光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 2名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 1名。この時点で5名の方に挙手をさせていただきましたが、東京書籍2名、そして、

光村図書が2名ということではいずれも過半数に達していません。以上を踏まえて、改めて採択をさせていただきたいと思います。

それでは、改めまして、「特別の教科 道徳」種目「道徳」についてお諮りします。

東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 では、東京書籍が3名となりましたので、「道徳」については、東京書籍の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに決定いたします。

予定しておりました10教科、16種目の採択が終了しました。改めて、事務局から確認をしていただきたいと思います。と存じます。

指導室長 それでは、令和7年度から荒川区立中学校で使用する教科用図書、10教科、16種目を申し上げます。

教科「国語」、種目「国語」、光村図書出版。

教科「国語」、種目「書写」、光村図書出版。

教科「社会」、種目「社会（地理的分野）」、帝国書院。

教科「社会」、種目「社会（歴史的分野）」、東京書籍。

教科「社会」、種目「社会（公民的分野）」、東京書籍。

教科「社会」、種目「地図」、帝国書院。

教科「数学」、種目「数学」、東京書籍。

教科「理科」、種目「理科」、新興出版社啓林館。

教科「音楽」、種目「音楽（一般）」、教育芸術社。

教科「音楽」種目「音楽（器楽合奏）」、教育芸術社。

教科「美術」、種目「美術」、日本文教出版。

教科「保健体育」、種目「保健体育」、大修館書店。

教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭（技術分野）」、開隆堂出版。

教科「技術・家庭」、種目「技術・家庭（家庭分野）」、開隆堂出版。

教科「外国語」、種目「英語」、三省堂。

教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」、東京書籍。

以上でございます。

教育長 採択結果は以上のとおりとなりました。採択結果につきましては、本委員会の終了後

に公開いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上で、議案第16号「令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。

続きまして、議案第17号「令和7年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題とします。事務局より議案の説明をお願いします。

杉山教育センター所長、どうぞ。

教育センター所長 「令和7年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、御説明をいたします。

提案理由でございます。令和7年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択するものでございます。

内容でございます。令和7年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科、種目ごとに、児童・生徒の実態に応じた教科用図書を調査研究し、その結果を受けて教育委員会において採択をいたします。

別紙7ページ、8ページに、教科、種目ごとの一覧にして、選定、採択いただきたい図書をまとめました。7ページに小学校が22冊、8ページに中学校37冊でございます。

令和6年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択につきましては、小・中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合は、学校教育法附則第9条、同法施行規則第139条の規定によって、教科により当該学年の文部科学省検定済みの教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、ほかの適切な教科用図書を使用することができるということになってございます。

特別支援学級で使用する教科用図書は、いわゆる一般図書と呼ばれております。本区におきましては、東京都教育委員会が作成しております資料を参考に、各学校が使用する一般図書を調査研究することとなっております。今回は令和5年度から令和7年度使用特別支援教育教科書調査研究資料、及び令和6年度用一般図書契約予定一覧から、各学校が調査研究いたしました。東京都では、これら2種類の資料等に示される一般図書において、十分な調査研究を行ってございます。

本区で使用する一般図書につきましても、基本として、都立特別支援学校で使用する図書と同じものを使用することにより、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた適切な図書を選択することができると考えてございます。

説明については以上でございます。御審議をどうぞよろしくお願いいたします。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

私から確認ですけれども、ただいまの説明にありましたように、荒川区の小学校、中学校、

全ての特別支援学級の先生方がこの教科書を推薦されてきたということで理解してよろしいのでしょうか。

教育センター所長 おっしゃるとおり、全ての小中学校の特別支援学級でこちらの教科書を使用すると。障害の特性によりまして、例えば、通常学級の使用している教科書を下学年のものを使用したり、特別支援学校で使用している星（ ）本を使ったりということはございません。

教育長 そのほか御意見、御質問等がございますでしょうか。

長島委員。

長島委員 この別紙にある中で新しく加わったものは何かあるのでしょうか。

教育センター所長 中には新しいものが入っております。毎年毎年障がいの特性、または程度によって様々変化してございます。

教育長 よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 ほかに御意見がないようであれば、採決に移らせていただきます。原案のとおり決定することに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。

議案第17号「令和7年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は、原案のとおり決定いたしました。

その他の報告事項ですけれども、教育委員会の日程について、事務局から説明がありますか。

山形教育総務課長。

教育総務課長 13ページを御覧ください。今回、日程等については修正はございません。本日は教科書採択ありがとうございました。

以上でございます。

教育長 それでは、以上をもちまして、荒川区教育委員会令和6年第15回定例会を閉会とさせていただきます。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

これで閉会とさせていただきます。

了